ヌエバ

NUEVA

革新の42枚パネル

日本リーグ唯一の公式試合球

あなたなら、どうたたかう・・・



国際公認球 検定球

42H301WBK
42H201WBK・WR

●手縫い●天然皮革●42枚パネル

SBHB作戦盤



検定球

HSH1

●手縫い●天然皮革●1号球

小学校試合球



国際公認球 検定球

42H310WBK・42H210WBK/WR

●手縫い●天然皮革●42枚パネル

全国中学校大会試合球

molten®

株式会社モルテン

東京本社　東京都墨田区横川5丁目5番7号　TEL(03)3625－7581㈹
東京・大阪・名古屋・福岡・広島四国・仙台・札幌・リノUSA・デュッセルドルフG

巻頭言

“自己責任時代の到来”と“ハンドボール10万人会”



（財）日本ハンドボール協会専務理事　　市原　則之

去る２月２０日の全国評議員会で、現執行部の継続をご承認いただきました。昨年４月に専務理事を仰せつかり、あっという間の１年でありましたが、その間、沢山の方々のご協力をいただきまして心から感謝致しております。

本年度も、執行部一丸となって頑張って参りますので、引き続き、よろしくご指導とご支援の程お願い申し上げます。

さて、日本経済はかつて経験し得ない、大変厳しい状況に見舞われております。そうした中で、スポーツ界にもその余波が訪れて参りました。昨今まで、日本の競技スポーツの繁栄に寄与してきた企業は、不況に喘ぎ、企業スポーツそのものの在り方を、問われる時期に直面しております。

また、大きな財政赤字を抱える国は、身軽になるため、抱えているものを少しでも地方や民間に下ろそうとし、学校教育の中の競技スポーツまで見直しを余儀なくしております。

この状況を総じて“自己責任時代の到来”といわれておりますが、昨年現執行部がスタートする時、すでにこうした事態は予測いたしておりました。

そこで、全国のハンドボールに係る総ての人が、自らの意識を変えて新しい時代に対応しなければならないことを、僭越ながら述べさせていただきました。

本年も、更にこの認識を高め、社会の流れに取り残されないように対応していかなければなりません。今までのように、社会の仕組みや流れを無視した、スポーツ界独特な先輩・後輩だけの排他的社会は、最早通用しなくなっております。言わば、“グローバルスタンダード”の時代です。

さて、こうした社会背景の中、本年の日本協会の重点活動計画は、下記のとおりとさせていただきました。

基本理念：「全国参加のハンドボール文化の構築」
基本方針：（１）「新登録制度“がんばれハンドボール１０万人会の推進”」
基本方針：（２）「男女ナショナルチームのシドニーオリンピック出場権獲得のため、アジア予選に最大の支援」
（部門別具体的活動方針は、当機関誌で継続発表）

以上の基本理念は、昨年度、機関誌やいろんな機会をとおして申し述べておりますが、今迄のように国やJOCからの助成を当てにしたり、日本リーグ加盟企業のすねかじりは、すでに限界がきております。

これからの自己責任時代は、競技者だけでなく審判や運営委員、更には今迄ハンドボール界に携わった方など、総てがやる側に立って知恵を出し汗をかく努力をしていただかなければならないと思います。

そうした全員参加の努力が多くの人々の共感を得、沢山のサポーターとなってハンドボール文化を醸成させるであろうと思います。

事業力を高めるにはメディアバリューが必要ですし、メディアバリューを上げるには多くの人を集めなければなりません。

“人は淋しがり屋、人の居るところには自然に人が集まる”

沢山の仲間づくり“がんばれハンドボール１０万人会”を推進させましょう。

どうかよろしくお願い致します。

特集 第23回日本ハンドボールリーグ

本田技研とイズミに栄冠

第23回日本リーグを終えて



日本リーグ運営委員長　山下　泉

“ANA　CUP”第23回日本リーグ・プレーオフは３月20、21日に駒沢体育館で開催され、ともにレギュラーシーズン１位の、男子は本田技研鈴鹿が10年振り３回目、女子はイズミが２年振り２度目の栄冠を獲得した。

男子は今シーズン限りで廃部が決定し有終の美を飾りたい中村荷役を１点差で下して、勢いにのる大同特殊鋼が本田技研に挑戦、両チームとも好プレーの連続で一進一退のゲーム展開、２度の延長90分の激闘を制したのは本田技研であった。

女子は昨年の王者オムロンに快勝し悲願の優勝を目指す北国銀行がイズミと対戦、イズミが驚異的な出足で前半を19―６と試合の主導権を握り、Ｖ２を決めた。

男女とも日本選手が世界のトップクラスの選手相手にどれだけ力を発揮できるかが焦点であったが、やはり試合の流れをつかむ能力差や個人技など勉強させられる点が多くあった。くわしい戦況は別の記事にして省略する。

優勝した両チームは外国選手にたよるだけでなく全員ハンドができたことが勝因と言える。

決勝戦は国内試合で初めてドーピングテストを実施し、結果は異常なしであったが継続して実施したい。

第23回大会からリーグの運営組織を改革し、運営委員会を支援する「日本リーグ部長会」を新設し、経営能力や企画力を提供して頂くことにした。今後、オーナー会議に準ずる組織としてリーグの運営に積極的に参加をお願いする。

日本経済の長期化する不況は企業スポーツにとり、極めて厳しい環境にあり、残念なことにリーグも例外ではなく、中村荷役の廃部と日新製鋼など４チームの活動縮小によるリーグ撤退を余儀なくされた。これからを存続させるには、市民、行政、企業の三位一体での支援体制が必要であり、その為にはどれだけ地域に浸透し、貢献できているかで決定する。各チームとも努力をお願いしたい。

第24回リーグは、６月26日からスタートし、よりエキサイティングでコンタクトなハンドを目指しますので“見るハンド”を生活の一部に加えて頂きご支援をお願いします。

第23回日本リーグを振り返って

日本リーグ運常副委員長　川上　憲太

（１）激動の第23回大会

世界ナンバーワンＣＰ、ステファン・ストックラン、フレデリック・ヴォル選手の参加で華々しくスタートした第23回大会でしたが、男子リーグでは初戦から大本命本田技研が三陽商会の健闘に敗れる波乱の幕開けとなった。

女子リーグでは、オムロン・日立の思っていた以上の苦戦の展開が続いた。結果的には本田技研・イズミとほぼ本命の優勝という形になりましたが、優勝した両チームに心からお祝いを申し上げるとともに関係者の努力に対して敬意を表したいと思います。

また、リーグ途中でバブル崩壊後の厳しい経済状勢を反映して男子１部リーグから２チーム、２部リーグから３チームが今シーズン限りでのリーグ離脱が発表され、日本リーグもさることながら日本ハンドボール界に激震が走りました。誠に残念でなりません。

この様にまさに激動の大会となりましたが、大変に盛り上がったプレーオフ大会で有終の美を飾れましたことは関係者のご支援・ご努力の賜物と厚く御礼申し上げます。

（２）世界トッププレーヤーが続々登場し、国際レベルの戦いが展開

今年は各チームの外国人プレーヤーに加え本田技研にストックラン、ヴォル選手が加わり、女子ではイズミに呉選手らが入って、男女ナショナルプレーヤーと国際レベルの激しい戦いが繰り広げられ、メディアも注目せざるを得ない高いレベルの試合が展開し、メディアバリューアップを目指す日本リーグとしましては大いに満足できました。

(3)プレーオフで最高の盛り上がり

「これはプレーオフのジンクスになるなあ」とファンの一人がつぶやいた通り、今年もまた第2延長まで試合がすみ3000人以上の観衆で埋めつくされた会場は興奮のるつぼと化しました。

やはりチャンピオンを争う日本のトップチームのここ一発の勝負とはここまで優劣のつきがたいレベルかと改めてハンドボールの魅力を確かめさせられた思いであります。

(4)マスコミ注目度アップ



今回はストックラン、ヴォル選手の加入により、当初よりこの二人の中心に日本リーグのPR活動を開始し、マスコミにリリースを繰り返した効果が出て、NHKを始め各局スポーツニュースにも取り上げられ注目を浴びました。プレーオフでは各新聞とも大きく紙面をさいて掲載し、NHKでは夜7時・9時のゴールデンタイムのニュースに流れました。これは山下委員長、稲住副委員長を先頭に当初から「マスコミ対策最優先」と言い続け、運営委員や関係の皆様の努力が実った結果と大変喜ばしく思っています。

(5)第24回大会に向けて　―主に広報・企画―

第23回大会の観客動員数は目標の2割強程アップしましたが、まだまだプレーオフのような会場が揺れ動くような観客というところまでいきません。今年から展開される「がんばれハンドボール10万人会」と並行して、観客動員にリーグ関係者全員で努力していきたいと思います。

また、テレビの多チャンネル化がいよいよ本格化する中で、マスコミ各分野ともニュース・ソースの奪い合いの状況が生まれてきます。全国レベルのメディアもローカルレベルのメディアも、それぞれにフレッシュで楽しいニュースが必要となっています。全国レベルの関係者はもちろんのこと、地方主催地関係者についてはそのローカルでのメディアを適確につかまえ、各々の責任で積極的対応を行いましょう。

たくさんのハンドボールの記事が新聞にのり、テレビ・ラジオで流れるようマスコミ対応に全力をあげましょう。

第23回日本リーグの激戦を振り返って

激烈!　熾烈!
プレーオフ出場権争い!

―プレーオフをめざした戦い―

第23回日本リーグは1月9日に再開、男女とも最終週までプレーオフ出場チームが確定しないという、大混戦となった。プレーオフへの生き残りをかけたサバイバルレースを振り返ってみよう。

【一部男子】

昨年プレーオフ、延長サドンデスで敗れた雪辱を期す本田技研は、フランスからの助っ人、ストックラン、ヴォル両選手の活躍で、各チームを次々と撃破、12勝1敗1分で早々にプレーオフ出場権を獲得した。この2人は本田技研の全得点の約半分(332得点中164得点)をたたき出す活躍ぶり。得点力もさることながら、「さすが世界のスーパースター」というプレーを随所で見せ、会場のファンを唸らせる場面がしばしばあった。元々本田技研はGK橋本に代表されるように「守りのチーム」というイメージであったが、その守り(リーグ1位)に得点力(リーグ2位)が加わった、まさに攻守バランスの取れたチームになって熱戦を制してきた。

リーグ戦を2位で終えた大同特殊鋼も朴性立(パク・ソンリップ)という新戦力が大活躍。得点ランキング、フィールドゴール、シュート率という3冠を獲得(史上初)した。瞬間の判断からワンステップでのジャンプ、シュートの切れは、まさに世界で通用するプレーと言えるであろう。特にシュート率では2位のストックランと5分近い大差を付けての獲得だけに、その確実性が伺われよう。チームとして得点力はリーグ1位と抜群の力を発揮したが、失点も多く(リーグ3位タイ)、本田技研との直接対決は2敗に終わった。プレーオフでの雪辱を誓ってのプレーオフ出場権獲得だ。

プレーオフ出場の最後の切符を巡っては、最後までもつれた。勝点16の中村荷役、1差で続く昨年の覇者・湧永製薬、さらに1差で三陽商会が続くという大混戦。自力で出場権を獲得できるのは中村荷役だけだが、同勝点で2チームないし3チームが並ぶと、チーム間の勝点もしくは得失点差で湧永製薬が出場権を獲得、中村荷役、湧永製薬がともに敗れると三陽商会に出場権が転がり込むという、まさに予断を許さない展開となった。

運命の最終週第1日(3月13日)、午後2時30分より広島

で湧永製薬対日新製鋼の広島ダービーマッチが、30分遅れの午後3時から川崎で中村荷役対三陽商会の直接対決が始まった。前期の対戦では、それまで全敗だった日新製鋼によもやの敗戦を喫した湧永製薬だったが、この日は前半終了時点で11—6とリード、そのまま逃げきり、川崎会場の結果待ちに。その川崎会場では立ち上がりから中村荷役がエンジン全開、エース趙範衍の故障欠場を全員が埋める気迫のプレーの連続で、プレーオフ出場に一縷の望みをつないだ三陽商会の夢を打ち砕いた。特にキャプテンGK井上は神懸かり的なキーピングで再三のノーマークシュートをことごとくシャットアウト、会場内の中村荷役ファンの悲鳴を歓声に変えた。結果、今季でリーグ撤退が決定している中村荷役の勇姿を、プレーオフでも見られることになった。

以下、昨年の覇者・湧永製薬は前期・日新製鋼戦の敗戦がたたって4位、最後まで善戦した三陽商会が5位、苦戦の続いた大崎電気オーソル、今季でリーグを撤退する日新製鋼、念願の一部勝利を飾ったトヨタ車体という結果となった。

【一部女子】

一部男子にもまして激戦だったのが一部女子。順調に白星を重ねていくイズミに対し、昨年の覇者・オムロンが3連敗で後退、立山アルミが急浮上するなど、毎週順位が入れ替わる状態で最終週に突入。ここまでプレーオフ出場権を得ているのはイズミのみ。勝点20の立山アルミ、2差で北国銀行、オムロンが並ぶというまさに生き残りゲームとなった。同勝点で並べばオムロン、北国銀行、立山アルミの順、最終戦で立山アルミが勝てば立山アルミは首位でリーグ戦終了という、試合が終了しなければ順位が決まらない戦国レース。

そんな中、3月13日に広島でイズミ対立山アルミ、埼玉で大崎電気オーソル対オムロンの試合が始まった。いずれの試合も上位チームが前半開始から圧倒、イズミとオムロンがそれぞれ快勝した。この結果、イズミのリーグ戦1位とオムロンのプレーオフ出場（3位以内）が確定した。残る1枚の切符の行方は翌日の北国銀行対シャトレーゼ戦の結果によることとなった。北国銀行が勝てば加盟チームで唯一第1回からプレーオフに出場しているチームという新たな勲章が得られるし、負ければ立山アルミが初めてプレーオフ出場という記録を作る、まさに両チームの運命を決める大一番となった。

翌3月14日（日）、昨年、一昨年とあと一歩で優勝を逃した北国銀行の気合は凄じく、立ち上がりからシャトレーゼを圧倒、得意の速攻も冴え渡り、30—15で快勝し、プレーオフ出場に滑り込んだ。4位とはいえ、上位2チームと同勝点をあげ、最後までリーグ戦の面白さを演出した立山アルミには心から拍手を贈りたい。

上位4チームがこれだけのハイレベルな順位争いを繰り広げた一方で、割を食ってしまったのが他の4チーム。5位・大崎電気オーソル、6位・日立栃木もそれぞれイズミから1勝をあげたものの大きく負け越し、7位・シャトレーゼ、8位大和銀行も善戦はするものの勝ち星には恵まれなかった。

【二部男子】

今季10チームに増枠、イースト、ウエストの2ディヴィジョンに分けてのリーグ戦、交流戦＋プレーオフという変則方式となった二部男子。安定感のある試合運びをしたのが、イーストディヴィジョンのデンソーとウエストディヴィジョンの本田技研熊本。両チームとも早々と各ディヴィジョンの1位を確定し、プレーオフの出場権を得た。残りのワイルドカードを巡っての争いは、イーストディヴィジョンの三景とウエストディヴィジョンのトクヤマ、アラコ九州の3チームに絞られた。

3チームの中で最初に飛び出したのがトクヤマ。後期に入り順調に白星を重ね、特に2月20日の対デンソー戦では土壇場の粘りで引き分けに持ち込み、貴重な勝点を得た。一方、残り一枚の切符を巡って、最終戦で勝点1差で争う三景とアラコ九州が激突したが、すでに三景が今季限りでの日本リーグ撤退を表明したことから、試合の結果いかんにかかわらずアラコ九州がプレーオフの出場権を得た。しかし、鳥取での最終戦は、後半中盤までは三景がリードしていたが、アラコ九州の粘りで逆転、三景が必死の反撃で辛うじて引き分けに持ち込むという熱戦となり、会場のファンを魅了した素晴らしい試合となった。

3月13日（土）、14日（日）に行われた二部男子プレーオフは、東西1位のデンソーと本田技研熊本が順当に勝ち、来季の一部昇格を確定した。決勝戦はリーグ戦の借りを返すべく本田技研熊本が前半からエンジン全開で、31—25と快勝した。

【二部女子】

来季からは一部リーグになることが既に決定している二部女子。勝敗よりは来年へつながる戦いができるかどうかが注目された。昨年一部8位となり自動降格となったジャスコに対し、ブラザー工業、ソニー国分、ムネカタがどこまで食い下がることができるのか、あるいは上回るチームがあるのか…。

結果はブラザー工業がゲーム運びのうまさを見せて11勝1分で1位、ジャスコは浦田姉妹を中心に得点を挙げたものの、ブラザー工業との直接対決では接戦をものにできず2位に甘んじた。3位は上位2チームと接戦を演じたソニー国分が入り、勝ち星に恵まれなかったムネカタが4位となった。

燃えた！　吠えた！　駒沢伝説再び！

―プレーオフにまた新たな伝説が―

激戦のリーグ戦を勝ち抜いた上位3チームが激突するANA　CUP第23回日本ハンドボールリーグプレーオフが3月20日（土）、21日（日）に開催された。

昨年は大雪の中、男子決勝（湧永製薬対本田技研）は、正規の試合時間でも第一延長でも決着がつかず、プレーオフ史上初めての第二延長サドンデス方式へ突入した。開始

５分過ぎの湧永製薬の劇的Ｖという伝説からちょうど１年。男子決勝でまた新たな伝説が生まれた。

【男子】

準決勝は大同特殊鋼（リーグ戦２位）対中村荷役（同３位）が激突。立ち上りから攻守に見ごたえのある熱戦となったが、前半残り５分から５連取した大同特殊鋼が５点リードで折り返した。後半に入り最後の試合にしたくない中村荷役が必死の追撃で会場は一気にヒートアップ、林珍錫（イム・ジンソウ）を失格で欠いた大同特殊鋼がピンチとなった。しかし、同点を狙った再三のシュートがクロスバーに阻まれ、１点差で大同特殊鋼が逃げ切った。

翌日の決勝戦は、リーグ戦で圧倒的な強さを見せた本田技研と前日の熱戦を制した大同特殊鋼が激突。本田技研・ストックランが切れのあるステップシュートを決めれば、大同特殊鋼・朴性立（パク・ソンリップ）がミドル、ロングシュートなど多彩なシュートを決めるという、一進一退の展開となった。前半こそ本田技研２点リードで折り返したが、後半に入って斉藤、ストックランを失格で欠いた本田技研が、大同特殊鋼に３点のリードを許すという展開となった。しかし、粘る本田技研もヴォルの７ｍＴなどで同点とし、延長戦へもつれ込んだ。

延長戦に入っても両者譲らず、第二延長戦へ突入。ここから本田技研GK橋本がファインセーブを連発、大同特殊鋼の反撃を抑えて歓喜のフィナーレを迎えた。

【女子】

準決勝は昨年の決勝カードの再現(オムロン対北国銀行)

★栄冠を獲得して

［男子優勝チーム監督］

本田技研ハンドボール部監督　**田口　隆**



まず最初に第23回日本ハンドボールリーグを終えて、日頃より企画・運営ならびにいろいろとリーグ発展のためご尽力いただいている方々に感謝申し上げます。

私たち本田技研ハンドボール部は、10年ぶり３回目の優勝という形でシーズンを終えることが出来ました。以下今リーグの反省も含めまして振り返りたいと思います。

開幕第１戦・対三陽商会戦では、ディフェンスが全く機能せず、オフェンスではどんな状況か全く把握できず、ただ個人個人がプレーしていただけでチームとしてどうあるべきかということを全て鈴鹿に置き忘れ、相手ホームに乗り込んだ形で完敗という苦いスタートとなりました。後に多くの方から第１戦に完敗したことがチームを一つにした良い経験であったと言われるように、この試合後自分たちが勝つためには強固なディフェンス力を身に付けること、そしてオフェンスにおいて一人一人が自分の役割の中で恐れることなく果敢にプレーすることが必要であることが再認識・再徹底された大きな出来事でありました。その後リーグを戦う中で常にこれらの反省を基に役割を意識した結果、リーグNo.１のディフェンス力（総失点261点、18.6点／試合)、そしてオフェンス力ではレギュラーシーズン中の日原・池辺の負傷、またプレーオフでの斉藤・ストックランの失格後の茅場・佐々木等全ての選手が頑張りを見せてくれました。これからも常に自分たちの目標を持ち、トレーニング・試合の時等に置き忘れてくることのないようにしていきたいと思います。

最後に本田技研ハンドボール部はまだまだ発展途上で多くの可能性を秘めているチームです。今後も引き続き、皆様からの応援・ご指導を必要としておりますのでよろしくお願いいたします。

★最高殊勲選手賞を受賞して

本田技研　**橋本行弘**



第23回日本リーグプレーオフ大会で本田技研チームが10年ぶり３度目の優勝を飾ることができ、また私自身も最高殊勲選手賞という輝かしい賞を受賞できたことに感謝し、応援して下さったサポーターの皆様を初め、関係各位の皆様に心よりお礼を申し上げたいと思います。

私にとって今回の日本リーグは、“明と暗”２つの出来事があった様に思います。

明るい話題としては、本田技研チームへのステファン、フレデリック両選手の加入です。“自分の所属するチームに本場のスター選手が来る”彼らと肩を並べてプレーできる喜びと共に自分のハンドボールそのものが変わっていく、また変えられることを肌で感じながらプレーできた満足感は、シーズン通して貴重な財産となったと思います。

暗い話題としましては、中村荷役チームの廃部、日新製鋼チームの日本リーグ撤退というハンドボール界への不況の波です。これまで何度となく戦ってきた球友を失うことは、私のみならずファンの皆様にとっても大変ショッキングなことではなかったのではないでしょうか。しかしリーグ戦最後の最後までボールを追いかける彼らの姿を見ると、私自身の方が逆に熱いエールを送られている様な感じさえ受けました。

この様に良くも悪くも揺れる球界で日本リーグを代表する最高殊勲選手賞をいただいたことに、選手でいられる喜びと、まだまだ現状に満足することなく、日本リーグの仲間たちと日本のハンドボールの発展に貢献できればと考えています。

〝日本リーグの発展＝ナショナルチームの強化＝日本ハンドボールの繁栄〟はハンドボールを愛する私たちの願いです。

21世紀に向けて皆さんと力を合わせ何か足跡を残そうではないでしょうか。

となった。立ち上りは北国銀行のペース、オムロンもGK山口を中心にディフェンスがふんばるが、北国銀行GK沖園が好セーブを連発、オムロンになかなか得点を許さない。後半に入ってからは一進一退の攻防となったが、前半のリードを守り切った北国銀行が３年連続で決勝へ駒を進め、悲願の初優勝にリーチをかけた。

決勝ではイズミ（リーグ戦１位）の強さが際立った。開始早々から多彩な攻撃と堅いディフェンスで北国銀行のミスを誘い、12分までに８－０と一方的に押しまくった。その後も監督兼任の林五卿（イム・オキョン）と呉成玉（オ・ソンオク）のコンビプレーと青戸、藤沢らの速攻などで、19－６と大きくリードして前半を終了した。

後半には北国銀行も上出、田中（由）、田中（美）らで必死に追撃するが、大きすぎる前半の失点をカバーすることはできず、３年連続で初Ｖの夢は破れた。

■個人表彰

《男子》

【一部】

〈最優秀監督賞〉田口　隆（本田技研・初）

〈最高殊勲選手賞〉橋本行弘（本田技研・初）

〈得点王〉朴性立（大同特殊鋼・初）　115点

〈フィールド得点賞〉朴性立（大同特殊鋼・初）　104点

〈シュート率賞〉朴性立（大同特殊鋼・初）　0.581

〈７ｍスロー得点賞〉源内利之（日新製鋼・初）　28点

〈７ｍスロー阻止賞〉宇田川竜也（日新製鋼・⑤）　15本

〈最優秀選手賞〉

ステファン・ストックラン（本田技研・初）

〈最優秀新人賞〉田場裕也（湧永製薬）

〈ベストセブン賞〉

ＧＫ・橋本行弘（本田技研・⑨）

ＣＰ・末岡政広（大同特殊鋼・②）

広政宜孝（本田技研・初）

杉山裕一（湧永製薬・初）

趙　範衍（中村荷役・④）

朴　性立（大同特殊鋼・初）

ステファン・ストックラン（本田技研・初）

〈ベストディフェンダー賞〉

フレデリック・ヴォル（本田技研・初）

〈フェアプレー賞〉湧永製薬　5.4点

【二部】

〈最多得点賞〉武田宏樹（デンソー・初）　108点

〈フィールド得点賞〉武田宏樹（デンソー・②）　108点

〈シュート率賞〉武田宏樹（デンソー・初）　0.675

〈７ｍスロー得点賞〉山本功（日鉄建材工業・初）　27点

〈７ｍスロー阻止賞〉村上正（トクヤマ・初）　11本

〈新人賞〉岡本敏明（トクヤマ）

〈敢闘賞〉ＧＫ・村上正（トクヤマ・初）

ＣＰ・高木浩司（本田技研熊本・初）

飯山秀俊（デンソー・初）

武田宏樹（デンソー・②）



保科秀和（トクヤマ・②）

山内茂樹（デンソー・②）

元島邦彦（アラコ九州・③）

〈ディフェンダー賞〉武田宏樹（デンソー・初）

〈フェアプレー賞〉ケー・エフ・シー　3.6点

《女子》

【一部】

〈最優秀監督賞〉林五卿（イズミ・②）

〈最高殊勲選手賞〉呉成玉（イズミ・初）

〈得点王〉呉成玉（イズミ・初）　114点

〈フィールド得点賞〉呉成玉（イズミ・初）　112点

〈シュート率賞〉山崎理恵（立山アルミ・初）　0.686

〈７ｍスロー得点賞〉上出恵美子（北国銀行・②）　45点

〈７ｍスロー阻止賞〉山口文子（オムロン・②）　23本

〈最優秀選手賞〉呉成玉（イズミ・初）

〈最優秀新人賞〉梶田華恵（シャトレーゼ）

〈ベストセブン賞〉

ＧＫ・山口文子（オムロン・②）

ＣＰ・小松真理子（北国銀行・②）

山崎理恵（立山アルミ・初）

田中由美子（北国銀行・初）

田中美音子（大和銀行・④）

呉成玉（イズミ・初）

田中美代子（北国銀行・③）

〈ベストディフェンダー賞〉松本恵美（日立栃木・③）

〈フェアプレー賞〉シャトレーゼ　4.5点

【二部】

〈最多得点賞〉浦田万紀（ジャスコ・初）　74点

〈フィールド得点賞〉浦田万紀（ジャスコ・初）　67点

〈シュート率賞〉浦田芳江（ジャスコ・初）　0.674

〈７ｍスロー得点賞〉池田奈美子（ジャスコ・初）　19点

〈７ｍスロー阻止賞〉崎山正恵（ソニー国分・②）　13本

〈新人賞〉菅谷美枝（ブラザー工業）

〈敢闘賞〉ＧＫ・太田典子（ブラザー工業・初）

ＣＰ・田原ゆかり（ソニー国分・③）

冨江祐子（ブラザー工業・初）

浦田万紀（ジャスコ・初）

池田奈美子（ジャスコ・初）

硲　美樹（ブラザー工業・初）

長木まみ（ソニー国分・③）

〈ディフェンダー賞〉菅谷美枝（ブラザー工業・初）

〈フェアプレー賞〉ブラザー工業　3.3点

第23回日本リーグ、シーズンの総括

第23回日本ハンドボールリーグは、昨年10月１日にスタートし、途中に、国体（神奈川）・アジア大会（バンコク）・全日本総合（神戸）をはさみながら、３月19、20日の東京・駒沢でのプレーオフまで、南は沖縄から北は青森まで、文字通り全国を熱戦の渦に巻き込んでのホットな戦いを繰り広げた。

プレーオフでは、女子がイズミ・男子が本田技研と、ともにレギュラーシーズンの１位チームが優勝するという、本来の姿で決着した形となった。以下に今シーズンの総括をおこなう。

◎参加チームは史上最多

第23回日本リーグの出場チームは、１部は男女各８、２部は男子10、女子４の、合計30チームとなり、長い日本リーグの歴史の中で最多の出場数となった。その後の企業スポーツの動向などを考えてみれば、この30チームは今後とも越えることのできない、項点であったのかもしれない。

◎２部でもプレーオフ

参加10チームとなった２部男子は、東西２分割＋プレーオフという、これまでにないリーグ戦方式でおこない、ホーム&アウェイに全国展開を加えるなど、望ましいリーグのあり方の模索もおこなった。

大会方式も概ね好評、プレーオフの一発逆転のチャンス含みについて期待感を抱かせる方法については、２部の立場からしては賛否両論であった。(第24回大会には今回の方式は採用されない)

◎リーグからの撤退相次ぐ

サッカーＪリーグの横浜フリューゲルスの合併問題に端を発して、多くの競技で、日本リーグから撤退する企業が相次いだ。ハンドボールでは、中村荷役・日新製鋼の１部で優勝経験を持つチームの突然の撤退表明に驚きを隠せなかった。その余波は２部男子にもおよんで、日鉄建材、ケーエフシー、三景の合計５チームが、23回大会を最後に日本リーグから消えた。

◎レギュラーシーズンは大混戦

女子１部はまれにみる大混戦となり、もつれにもつれた。最終週までプレーオフ進出の３つの椅子を巡って激しい星のつぶしあいだけではすまない、得失点差の争いにまで持ち込まれた。

立山アルミの場合、最終戦・イズミに３点差以上で勝てば、レギュラーシーズン初優勝のチャンスがあったがこれに大敗、オムロン・北国銀行と勝ち点20で並んだ。ここがまた、当該３チーム間の勝ち点は、３チームとも同点、次の当該３チーム間の得失点差によって決定するとの取り決めによって、オムロン・北国・立山の順となり、立山アルミは４位となり、プレーオフ出場権すら手に入らなかった。

◎レギュラーシーズンからプレーオフまで

昨年度はレギュラーシーズンの終了が１月末、プレーオフ決勝が３月１日と、１ケ月のインターバルがあった。チームの練習も的を絞れただろうし、運営の準備も十分につぎ込む時間がとれた。今年度の場合は３月14日が最終日～プレーオフ準決勝が３月20日と、丸５日間しかインターバルがなく、チームの方も大会運営の方もプレーオフ対策はおこなわれず、レギュラーシーズンの続きというレベルで、やるしかない状態であった。この点、レギュラーシーズンが混戦だった女子の２位、３位のチームは慌ただしかったと想像できる。せめて、１週間は空けるだけのスケジュール上のゆとりは欲しいものだと反省する。



1998年日本ハンドボールリーグテーマソングを歌う「MY AGE」の２人

◎プレーオフ男子決勝は今年も延長戦

昨年のプレーオフ・湧永ｖｓ本田の一戦は、世界で初めての２点連取サドンデス方式による決着という歴史的な好ゲームだったが、この方式は、時間無制限となり先が見えないこと、２点差で決まる場合と１点差で決まる場合とがあり公平性が保たれていないこと、などを勘案して今回からは、第２延長＋７ｍＴＣの日本協会競技規則に沿うかたちに変更したが、男子決勝・本田ｖｓ大同のレギュラーシーズン１位対２位の対決は、なんと第２延長にまでもつれ込む、これまた歴史に残る名勝負といえる大接戦を繰り広げた。結果論ではあるが、総試合時間は昨年の時間無制限サドンデス方式の場合75分53秒、26―24で決着、今年の場合は、きっちり80分、34―32であった。(昨年と同じ方式をとったとすれば、73分32秒、31―29であっさり決着していたことになる。)

◎99年度は小間切れ日程

1999年度の第24回日本リーグは、シドニー五輪予選、世界選手権（女子）があることから、これらの隙間を縫ったかたちでスケジュールが設定されております。６月26日～７月４日までに４ゲーム、９月７日から女子が再開し10月10日までで、女子は12チーム１回戦のレギュラーシーズンを終了する。男子は、９月17日に再開し10月10日までで６ゲームをおこなって再度中断、翌年２月19日に再々開し３月11日にレギュラーシーズンを終了するという、変則このうえないシーズンとなる。プレーオフは男女同時に、３月

19、20日に東京・駒沢で行われる。日本リーグと言えども、世界を目指す全日本の強化スケジュールを最優先していこうという、強い意志がこの小間切れ日程のなかに含まれています。

◎第24回大会は大幅に模様替え

第24回日本リーグは、相次ぐ撤退や、すでに決めていた女子の1リーグ化などもあって、今回とは大幅に様子の違った日本リーグとなります。

【男子】

(1部) 本田技研・大同特殊鋼・湧永製薬・三陽商会・OSAKI OSOL・トヨタ車体・本田技研熊本・デンソー

(2部) トクヤマ・アラコ九州・トヨタ自動車・北陸電力・大阪ガス

【女子】

イズミ・北国銀行・オムロン・立山アルミ・OSAKI OSOL・日立栃木・シャトレーゼ・大和銀行・ブラザー工業・ジャスコ・ソニー国分・ムネカタ

6月26日(土)、沖縄・広島・山形でのオープニングフェスティバルからはじまる「第24回日本ハンドボールリーグ」引き続いてご声援よろしくお願いいたします。

第23回日本ハンドボールリーグプレーオフ

【男子】

■準決勝

大同特殊鋼 25 (14—8 / 11—16) 24 中村荷役

「幾多の名勝負を繰り広げた中村荷役、有終の美を飾れず。大同の決勝進出が決定した。」

レギュラーシーズンは2敗と安定した戦い方の大同に対し、今年で日本リーグ脱退の決まっている中村。有終の美を飾りたい中村荷役は、40秒、八尾の巧いサイドからのループシュートで先制。すぐさま大同も藤井のポストシュートで得点し、両チームの得点力を生かした激しい攻防の火ぶたが切って落とされた。朴のカットイン、末岡のポスト、冨本の速攻でのミドルシュートとまんべんなく得点する大同に対し、8分過ぎから、趙が野村に替わり出場。そこから大同に2人の退場者が出て苦しいところ、大同のGK日原が中村呉のポストシュートをファインセーブ。6—4で乗り切り14分を経過した。趙の豪快なミドルシュートで応戦する中村だが、ラスト5分、末岡・朴・柴田・冨本の2

★日本リーグに優勝して

イズミ監督 林 五卿

(イム・オキョン)



3月21日に北国銀行をプレーオフで破って2年ぶり2回目の優勝をすることができて思ったことは「あー、終わった」「うれしいっー」でした。イズミは1998年10月3日に地元広島でのオムロン戦に勝ち幸先のよいスタートを切ったが、5か月に及ぶシーズンは長く辛く感じました。その間休みもなかなか取れず、選手たちには厳しい練習を課したと思うがよくついてきてくれ感謝の気持ちでいっぱいです。2年前の初優勝のときは自分自身の体力、技術に自信があったので自分がやれば勝てると思いプレーをしたが、今回は自分の体力や技術が落ちていたのでほかの選手たちの力を借りなくてはいけないとシーズン前から思っていました。選手たちには2以上のポジションをこなせるよう要求しました。また試合前には相手チームをビデオテープなどを使って研究しました。選手たちは練習の時から常にノートを持ち記録しています。こうした日頃からの積み重ねが優勝という結果につながったのだと思います。まだまだ選手たちの持っている力が出ていないと思っています。

来年も優勝祝賀会のおいしい料理が食べられるよう頑張りたいと思います。

★最優秀選手に選ばれて

イズミ 呉 成玉

(オー・ソンオク)



イズミチームが優勝できたことでとても嬉しいのにこんな賞まで貰って二重の喜びです。この賞はチーム全員が貰ったものだと思っています。

私はこの1年間いつも一生懸命プレーすることを心掛けてきました。1996年のアトランタオリンピックが終わって半年くらい韓国の実業団チームでプレーをした後、結婚、出産で1年間休んでいました。1998年3月に縁あってイズミに入社しましたが、体重も増え、体も思うように動かずとても心配しました。階段を走ったり、ウエイトトレーニングを続けた結果、8月頃ようやく体力に自信が持てるようになりました。9月の韓国遠征で向こうの実業団や大学生とゲームをする中で私の中に眠っていた闘争心に火がつきました。この遠征で全盛時の80%くらいまでには復調したと思います。後はリーグ戦を戦う中でゲーム感を呼び戻すことができたと思います。得点王も併せていただきましたが、最初から狙っていたわけでもなく、また1人でとれるものでもないし、チームメイトのお陰と本当に感謝しています。今後は益々精進を重ねイズミのために頑張りたいと思っています。

連取など５連続得点をした大同の６点リードで前半は終了した。

後半出だし、朴のステップなどで得点を重ねる大同に対し、中村は同じ韓国代表でもある趙のステップで応戦。息詰まる戦いが繰り広げられる中、中村の新人可部の速攻の得点で、21—17と４点差まで中村が詰め寄った。ここからも中村のDFなどの頑張りと、残り９分、趙のステップシュートで１点差となる。しかし、残り３分、大同の林が３回目の退場により失格となり、大同のピンチは続くが、残り７秒、中村八尾のシュートがゴールのバーに当たり、幾多の名勝負を繰り広げた中村荷役の日本リーグは終わり、大同が決勝へのキップを獲得した。

■決勝

本田技研　34（14—12／10—12／延長／1—4／4—1／3—0／2—3）32　大同特殊鋼

【本田技研】			【大同特殊鋼】		
得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
0	四方	1	2	佐藤	0
3	池辺	2	3	朴	14
0	羽賀	3	4	冨本	3
0	佐々木	4	7	市原	0
2	茅場	5	8	藤井	5
1	斎藤	7	9	林	2
5	加藤	8	10	末岡	5
5	広政	10	12	日原	0
0	橋本	12	14	柴田	2
0	日原	17	16	荻田	0
6	ストックラン	18	18	南川	1
12	ヴォル	21	20	山本	0
34	計	（鄭、林）		計	32

「２年続けての延長戦、今年の締めくくりとしては最高の試合になり、本田が10年ぶり３度目の優勝で幕を閉じた。」

勝てば、10年ぶり３度目の優勝となる本田と、前日の大接戦をものにした大同。開始１分、本田加藤からのパスで池辺がポストシュート。熱戦の火ぶたが切られた。ストックランのスピードあるステップなどでリードする本田に対し、負けじと大同朴がステップを打ち込み、一進一退の攻防を繰り広げる。激しいチェックで本田は２人の退場者を出すが、橋本の再三に渡る好セーブと、加藤のステップシュートでピンチを抜ける。しかしここから、大同は、朴のミドル、末岡の７ｍTで２点差まで詰め寄り、14—12で前半を終える。

後半は、朴の７点目となるロング、本田広政の速攻と、相ゆずらず進むが、13分、本田斉藤の３回目の退場により失格。１人少ない本田に対し、大同冨本のミドルシュートでこの試合初めての同点となる。ヴォルのロングで突き放そうとする本田だが、大同キャプテン藤井の２連取と林のロングで３点差となる。しかし本田も頑張り、ヴォルの７ｍT、広政のサイドなどで同点とし、延長へともつれ込んだ。

第一延長は、大同が朴・柴田らで５点、本田も広政・ヴォルなどで５点、決着のつかないまま第二延長へ入り、前半本田が加藤のロングなどで32—29とリードし、後半は再三、再四に渡る本田の守護神橋本のファインセーブにより、２点差のままタイムアップ。歓喜の幕切れとなった。

【女子】

■準決勝

北国銀行　23（10—7／13—12）19　オムロン

「運動量の多いDFで北国粘勝。リーグでの決着は北国に軍配。決勝の出場権を獲得した。」

リーグでは同率でプレーオフに勝ち残った２位オムロンと３位北国銀行。まずペースを握ったのが北国。開始１分、小松のサイドシュートで先制し、中村、上出で着々と得点を重ね、前半５分で４—１と北国がリードした。固さの見えるオムロン。たまらず６分にタイムアウトをとり、その後、陳のポスト、キャプテン宮本の７ｍTなどで20分以降一進一退の攻防が続き、10—７と、北国の３点リードで前半を終える。

後半出だしも田中（由）のポストシュートなどで北国がペースを握り、開始３分で13—８と５点差をつける。後半６分には、オムロンたまらず北国の上出、田中（美）にダブルマンツーマンをつけ、挽回をはかるが、北国のＧＫ沖園の好守で北国も譲らず、５点差のまま10分を経過した。15分、上出の７ｍTで８点差となった時点で、流れを変えたいオムロンがタイムアウトをとり、その後、石のロングなどで点差を詰めたが、終始オムロンのお株を奪う、運動量の多いDFで北国が優位にすすめ、高橋の速攻、カットインなどで粘るオムロンに快勝し、北国が決勝へのキップを獲得した。

■決勝

イズミ　30（19—６／11—14）20　北国銀行

「イズミがレギュラーシーズンの好調をキープし、勢いのある北国を撃破。２年ぶり２度目の優勝を決めた。」

【イズミ】			【北国銀行】		
得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
1	広瀬	2	1	沖園	0
4	藤澤	3	2	上出	5
7	青戸	4	3	田中（由）	4
0	橋詰	5	5	小松	0
3	河本	6	7	浜田	1
4	林	7	8	中村	5
3	岩本	8	10	和田	1
6	呉	10	11	田中（美）	4
1	藤野	11	12	安田	0
0	村上	12	14	小野	0
1	小島	14	15	斎藤	0
0	片岡	16	17	黒木	0
30	計	（浜田、小笠原）		計	20

前日、４点差でリーグ２位のオムロンを破り、３位チームとしては初めての決勝に進出した北国に対し、リーグ単独トップのイズミがどのように受けて立つか、韓国代表コンビの活躍も見どころの一つとなった決勝。イズミは１分、林のミドルシュートで先制。そこからは、固くなった北国の攻撃のミスをついて、青戸の巧いポスト、岩本の速攻、呉のアウトへのカットインなどで12分までで８—０とイズミ一方的リードで中盤をむかえる。13分、北国中村のカットインで初得点を挙げるが、呉のステップや藤澤のサイドなどで着々と得点を重ねるイズミが、19—６と13点の大量リードで前半を終えた。

北国がどの様な巻き返しはかるか注目の集まる後半だっ

たが、林、呉の韓国コンビにダブルマンツーをつける北国に対し、河本の7mTや青戸のポストシュート、再び河本のミドルシュートなどで着々と得点を重ねるイズミ。後半7分、23−7と16点の大量リードを奪った。それ以降、田中（美）、田中（由）のポスト2連取で追撃するも、イズミGK村上の好守などでセーフティリードを守る。17分、イズミの不正交替でピンチを招くが、青戸のミドルシュートや河本のカットインなどで、セーフティリードを守ったまま、中村の速攻などで粘る北国に完勝し、優勝を決めた。

第23回日本ハンドボールリーグ成績表　レギュラーシーズン日程終了

順位	[1部男子]	本田技研	大同特殊鋼	中村荷役	湧永製薬	三陽商会	大崎電気	日新製鋼	トヨタ車体	勝数	引分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差
1	本田技研		○22 ○28	○22 △16	○20 ○26	●19 ○21	○24 ○29	○32 ○26	○26 ○21	12	1	1	25	332	261	71
2	大同特殊鋼	●20 ●25		○26 ○23	△19 ○23	○33 ○32	○29 ○28	○23 ○23	○24 ○30	11	1	2	23	358	283	75
3	中村荷役	●15 △16	●20 ●21		●13 ○22	△25 ○22	○24 ○29	○25 ○26	○31 ○20	8	2	4	18	309	283	26
4	湧永製薬	●16 ●11	△19 ●19	○21 ●15		○17 ○29	○29 ○26	●19 ○23	○28 ○25	8	1	5	17	297	270	27
5	三陽商会	○25 ●20	●20 ●17	△25 ●16	●16 ●21		△26 ○25	○27 ○22	○25 ○24	6	2	6	14	309	331	−22
6	大崎電気オーソル	●21 ●20	●26 ●17	●21 ●20	●18 ●14	△26 ●22		○23 △22	△23 ○23	2	3	9	7	296	357	−61
7	日新製鋼	●18 ●18	●22 ●20	●23 ●22	○20 ●16	●22 ●20	●22 △22		●16 ○29	2	1	11	5	290	331	−41
8	トヨタ車体	●18 ●18	●21 ●11	●19 ●14	●22 ●20	●20 ●23	△23 ●21	○19 ●21		1	1	12	3	270	345	−75

順位	[1部女子]	イズミ	オムロン	北国銀行	立山アルミ	大崎電気	日立栃木	シャトレーゼ	大和銀行	勝数	引分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差
1	イズミ		○27 ○29	○25 ○30	○26 ○36	○33 ●29	●29 ○27	○32 ○30	○27 ○34	12	0	2	24	414	356	58
2	オムロン	●22 ●22		○24 ●19	○23 ●25	○22 ○25	○26 ○23	○27 ○30	○27 ○29	10	0	4	20	344	277	67
3	北国銀行	●22 ●27	●23 ○21		○28 ●25	○27 ○36	○30 ○28	○28 ○30	○29 ○28	10	0	4	20	382	305	77
4	立山アルミ	●24 ●25	●14 ○29	●24 ○29		○32 ○29	○26 ○35	○28 ○31	○35 ○29	10	0	4	20	390	368	22
5	大崎電気オーソル	●29 ○30	●17 ●13	●16 ●28	●26 ●26		○30 ●22	○31 ●26	○24 ○35	5	0	9	10	353	384	−31
6	日立栃木	○33 ●25	●18 ●19	●23 ●22	●24 ●27	●25 ○23		●26 ○23	●20 ○26	4	0	10	8	334	382	−48
7	シャトレーゼ	●29 ●24	●16 ●17	●16 ●15	●25 ●26	●24 ○28	○29 ●21		●19 ○25	3	0	11	6	314	386	−72
8	大和銀行	●19 ●25	●20 ●14	●22 ●12	●23 ●28	●23 ●28	○32 ●24	○21 ●23		2	0	12	4	314	387	−73

※2～4位は、対戦間得失点差による。

第23回日本ハンドボールリーグ成績表　レギュラーシーズン日程終了

順位	[2部 男子イースト・ディビジョン]	デンソー	三景	トヨタ自動車	北陸電力	日鉄建材工業	本技	トクヤマ	アラコ	KFC	大阪ガス	総合順位	勝数	引分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差
1	デンソー		○30 △27	○35 ○32	○27 ○34	○42 ○38	○26	△29	○41	○42	○40	1	11	2	0	24	443	310	133
2	三景	●21 △27		○29 ●21	●23 ●15	○37 ○35	●23	○20	△21	○31	○21	4	6	2	5	14	324	270	54
3	トヨタ自動車	●32 ●24	●16 ○22		○15 ○22	○18 ○26	●20	●26	●20	○26	△20	6	6	1	6	13	287	310	−23
4	北陸電力	●22 ●22	○24 ○19	●14 ●19		○31 ○23	●20	●19	○30	●18	○28	8	6	0	7	12	289	280	9
5	日鉄建材工業	●16 ●20	●22 ● 9	●10 ●20	●15 ●15		●15	●12	●23	●23	●18	10	0	0	13	0	218	401	−183

※総合順位1〜2位、5〜6位、7〜8位は、対戦間勝点による。

順位	[2部 男子ウエスト・ディビジョン]	本田技研熊本	トクヤマ	アラコ九州	ケー・エフ・シー	大阪ガス	デンソー	三景	トヨタ	北電	日鉄	総合順位	勝数	引分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差
1	本田技研熊本		○21 ○31	○31 ○23	○22 ○28	○19 ○29	●23	○26	○30	○32	○30	2	12	0	1	24	345	250	95
2	トクヤマ	●15 ●17		○29 ●18	●17 ○28	○28 ○26	△29	●18	○31	○22	○38	3	7	1	5	15	316	290	26
3	アラコ九州	●25 ●22	●23 ○21		●23 ○29	○37 ○29	●29	△21	○24	●18	○31	5	6	1	6	13	332	328	4
4	ケー・エフ・シー	●19 ●16	○24 ●25	○33 ●26		○27 ○24	●24	●19	●25	○21	○33	7	6	0	7	12	316	331	−15
5	大阪ガス	●16 ●16	●19 ●20	●19 ●14	●22 ●22		●21	●17	△20	●21	○19	9	1	1	11	3	246	346	−100

※総合順位1〜2位、5〜6位、7〜8位は、対戦間勝点による。

順位	[2部女子]	ブラザー工業	ジャスコ	ソニー国分	ムネカタ	勝数	引分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差
1	ブラザー工業		○19○18 △19○16	○20○21 ○26○20	○39○26 ○33○33	11	1	0	23	290	171	119
2	ジャスコ	●14●15 △19●15		△21○22 ○26○23	○28○29 ○29○38	7	2	3	16	279	175	104
3	ソニー国分	●14●19 ●14●18	△21●18 ●11●15		○27○41 ○30○28	4	1	7	9	256	238	18
4	ムネカタ	● 6●10 ●15●12	● 9●13 ●10● 6	●12●14 ●14●19		0	0	12	0	140	381	−241

※1部男子、1部女子の最終順位は、上位3チームによるプレーオフの結果で決定される。
2部男子プレーオフ出場4チームのうち、上位2チームの最終順位は、プレーオフの順位で決定される。



第22回 全国高校選抜大会
男子は興南、女子は福井商業が優勝

大阪、富山から関東そして全国へ

全国高体連専門部委員長
北　岡　大　覺

平成10年度第22回全国高等学校ハンドボール選抜大会が大阪市中央体育館をメイン会場として全国各ブロックを勝ち抜いた男女各36チームを迎え３月24日～28日の５日間にわたり開催された。

この大会は愛知県体育館で長年固定した開催地での高校生の大会であったが、今大会より試合会場を２～３年毎移動して開催される移動開催地方式となった。

日頃熱心にハンドボール競技を指導されている全国の先生方の強い要望である「出場チーム数を増やし、より大きい規模の大会に」と言う声に応え、その夢が少し現実のものとなってきた。しかし、新ルールによる時間延長の問題、コート数増、日程増等による経費がかさむ問題、一抹の不安を抱くが、この選抜大会がより成長を図る為には全国の協会・高体連の方々の「命の力」により発展を育み、これまでの歴史を守り続けていただきたい。

今の世は、人との対話・遊ぶ・仕事・心身活動等、すべてが機械を相手に、そんな時世だからこそ「人と人との人間の創造性を育むハンドボール競技活動」が大切なのではないでしょうか。

21世紀に羽ばたく子供達に大きな感動の舞台・夢をかなえ、そして将来への飛躍のチャンスを与える場を整える為「気張って努力」をお願い申し上げます。

来年もう一度大阪開催、すべて新ルールの30分ハーフ、今大会準々・準決Wヘッダー疲労で脚吊り怪我続出、故に健康安全を考慮して来年はWヘッダーを廃止したい。一日、日程延長を検討中です。

素晴らしい今大会だったと賞賛の声をいただいて喜びと感謝の念でいっぱいですが、今大会を成功に導いて盛り上げて下さった出場選手、監督、コーチ、また観覧席で熱い声援を送って下さった日本全国の関係者、並びに準備運営の近畿・大阪協会並びに高体連の役員関係者及び審判員の皆様方にこの誌面をお借りして御礼申し上げます。有り難うございました。

初めての大阪開催を振り返って

大阪高体連ハンドボール部専門委員長
勝　本　章　裕

３月28日(日)、すべての後片づけが終わり、大阪市中央体育館から出ていく役員の先生方の車を見送りながら、「全国選抜大会の大阪開催の初年度を無事終えることが出来たんだなあ」という感慨にふけっていました。このとき脳裏に浮かんだ『思い』を中心にこの大会を振り返ってみたいと思います。

『大阪開催までの道のり』

近年の少子化現象及び部活動（主に運動部）離れによるハンドボール部員の減少やハンドボール部の消滅に対して歯止めを掛けるための一つの対策（プラン）として、大きなイベントを行う必要性がありました。すなわち、近畿地区のハンドボーラー人口の増大を図るためには、全国選抜大会を大阪で開催し、入場料を無料にすることでより多くの観客にこの大会を観戦してもらい、目の前で繰り広げられる高度なレベルのパワー・スピード・テクニックや素晴らしい団結力に触れ、ハンドボールの魅力を感じてもらうことが必要だと思ったのです。このようなねらいを持って、高橋精一前専門委員長が中心となり全国選抜大会の大阪開催を精力的に進めてこられたという経緯を踏まえて、私が



専門委員長になった平成９年６月８日の常任委員会で大阪開催誘致の方向が決定されました。しかし、全国選抜大会開催の３月末の時期は、年度末のまとめ及び新学期の準備等で多忙な時期であり、その上人事異動の時期でもあり、またチーム強化のための合宿等を行う大切な時期でもあります。これらの問題点を乗り越えてまでも、この大会の開催誘致を決定したのは、それ以上にハンドボールの普及及び発展を願う役員の熱意の顕れだと思っています。

この決定以後、大会準備を具体化していく中で、愛知県

がここまでこの全国選抜大会を育ててきた偉大さを痛感することになりました。この大会準備の大変な苦労を繰り返してこれまで20回も大会運営をしてきたのだと思うと、愛知県の役員の方々には頭が下がる思いがしました。

『選抜大会開催の成果』

最も大きな成果は、競技役員約150名、補助生徒約170名の誠意ある参加に尽きると思います。その結果、たくさんの人が集まり一つの目標に向かって突き進んでいけば、凄いパワーを発揮することが実感出来ましたし、この多くの先生方や生徒達の真摯な熱意に支えられて全国選抜大会が運営されたことは、大阪高体連ハンドボール部の更なる発展を意味しています。

常々大阪高体連の先生方と話をしていることですが、我々一人一人は各チームの監督であり、レフェリーであり、高体連の役員であります。しかし、これらの役割の中で、最も優先して捉えるべきは、『チームの監督』ではないのかということです。その次に大会運営の役割（レフェリーや役員）があると思うのです。したがって、たとえ全国選抜大会を運営していても、チームを預かる監督の目で、ハンドボールを学び、その高いレベルを吸収していくことが大切であると言ってきました。そのためにも大会関係者である顧問の先生方には出来るだけ多くの試合を観戦し、より高い指導力を学びとって欲しかったのですが、うまく観戦出来たかどうかが気になっています。また、中体連や高体連の各チームの生徒達が多くの試合を観戦し、ハンドボールに対する熱意や技術を習得してくれたのかも気になっています。

『お礼並びに来年度への抱負』

最後に、各関係の方々に感謝の言葉を申し上げたいのですが、お世話になった方が多すぎて、すべての方々を上げきれません。私の気持ちとしては、どの方向にも足を向けて寝られないぐらいたくさんの方々のご協力に、大きな感動をいただいたことをご報告しておきたいと思います。

今年度の反省から、来年度には、『マスコミ（テレビ・新聞）へのアピール』、『大阪府及び大阪市が発行している諸雑誌への掲載』、『中体連・高体連による観客動員』、『役員数の増加による余裕ある大会運営』等を目指して、大阪ハンドボールの総力を挙げて大会運営を行いたいと思っています。来年度も皆様方のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

第22回全国高校選抜大会戦いの記録

【男子】

■準決勝

桃山学院 23 (13—10 / 10—12) 22 育英

両チーム共立ち上がりより、速攻・セット共スピードとパワーあふれるプレイが展開された。決定力とGKの好守で桃山がリードして前半を終える。後半4分で育英が同点に追いつくが、終始桃山リードでゲームが進む。残り8分より育英木野、桑原等の速攻で加点し、残り2分でリードするも粘る桃山は終了間際、志賀、泉原のフリースローからのシュートで劇的な逆転勝ちを収めた。両チーム共力を出し切った好ゲームであった。

■準決勝

興南 25 (10—11 / 15—7) 18 此花学院

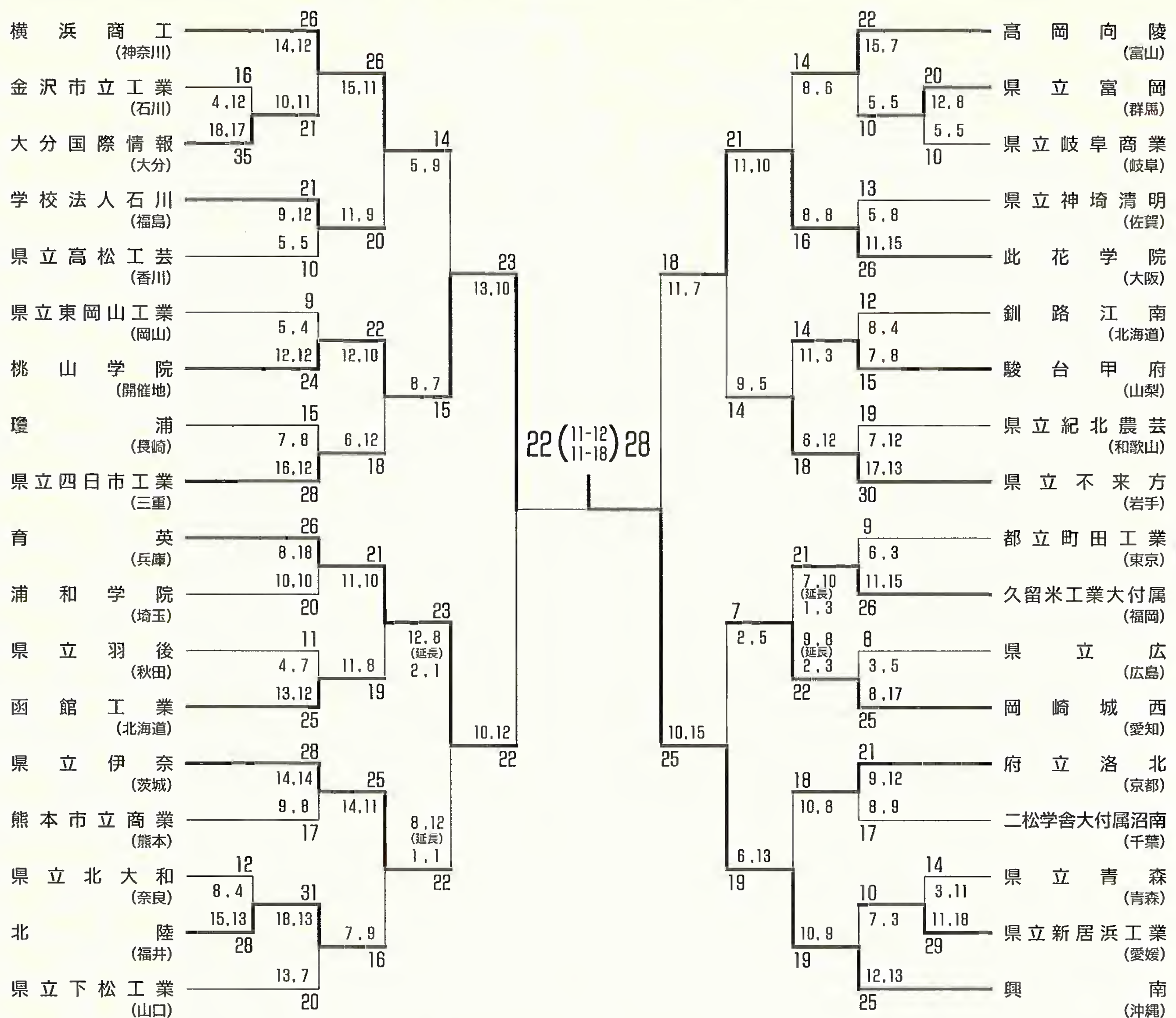
興南高校のスローオフで開始。両チーム共力と力の対決であったが、此花学院は猪妻を中心に着々と加点したが、興南は立ち上がりから8分間ノーゴール。此花の固いディフェンスに苦しむが、中盤当たりから得意のリズムを取り戻し互角の試合展開になった。後半に入ると興南はディフェンス体形を変えた作戦が当たり出し此花のシュートが単発になり始めたのを機に、一気加勢に興南が着々と加点した。ゾーンマンツーからの展開力が興南のGKの好守を生み出し勝利を得た。此花は猪妻の頑張りが光った。

■決勝

興南 28 (12—11 / 16—11) 22 桃山学院

決勝戦前半、興南の堅いディフェンス力、桃山学院のフリースローからの展開力がこの試合の見どころであった。立ち上がり桃山学院の堅さがみられ、3連続ゴールを許し

第22回全国高等学校ハンドボール選抜大会（男子）



たが、増永のミドルで対抗し、一進一退の好ゲームであった。後半桃山学院の陽動作戦も通じず、また興南の変幻自在のパスに惑わされ着々と追加点を与えた。結局前後半をみて興南の個々の力、組織力が勝因であり、桃山学院も随所に好プレーがあったものの相手のプレスディフェンスを崩せなかったのが敗因といえよう。

【女子】

■**準決勝**

名古屋短大付　21 (10—10 / 11—9) 19　小松市立

小松は、センター江端を中心とした多彩な攻撃でリードをする。それに対して、名短は岡田、宮ノ腰、長野のロングシュートが決まりだし前半を同点で終了する。後半は、名短のロングシュートと小松のカットイン、山岸のサイドシュート、新田のミドルシュートなどで一進一退のゲーム展開となるが、残り2分に名短宮ノ腰のロングシュートが決まり、名短が決勝に進んだ。両チームのゴールキーパーの好守によって好ゲームとなった。

■**準決勝**

県立福井商業　17 (5—3 / 12—8) 11　四天王寺

準決勝前半、立ち上がり一進一退の攻防であり、緊張ムードの中で試合開始10分まで2—2、その後福井商業のリバウンド、7ｍスロー等で3点差となった。一方四天王寺は20分間、福井商の3、4、5番の高さへの壁を突破できず単調な攻めで得点できず、少しずつあせりのムードであった。しかし前半終了間際、四天王寺石山のロングシュートで後半に望みをつなげた。後半、先取点は四天王寺石山のロング、2分40秒、同じく石山のロングで試合ペースをつかみかけたが、福井商も10分まで長身谷口のポストシュートで7点連取し、5点差にひろげた。後半17分、15—8、どうしても福井商のディフェンスの厚さの前で単調な攻撃となっていたが、2番大前のロングシュート、7ｍ等で必死に追いすがっていったが、福井商の個々のフェイント力、谷口のポストシュートが上手に生かされ、結局17—11で福井商の勝利に終わった。

第22回全国高等学校ハンドボール選抜大会（女子）

回戦	チーム	得点	前半・後半	得点	チーム
1回戦	県立松山北（愛媛）	16	9,7 / 7,4	11	県立神埼清明（佐賀）
2回戦	県立添上（奈良）	25	13,12 / 3,4	7	県立松山北（愛媛）
2回戦	暁（三重）	11	5,6 / 12,9	21	文化女子大付属杉並（東京）
2回戦	小松市立（石川）	27	14,13 / 8,8	16	大谷（開催地）
2回戦	県立郡山東（福島）	10	6,4 / 15,5	20	県立岩国商業（山口）
3回戦	県立添上	22	10,12 / 15,12	27	文化女子大付属杉並
3回戦	小松市立	25	14,11 / 6,5	11	県立岩国商業
準々決勝	文化女子大付属杉並	19	8,11 / 12,8	20	小松市立
2回戦	県立盛岡第二（岩手）	22	8,14 / 6,9	15	浦和実業学院（埼玉）
2回戦	府立洛北（京都）	14	6,8 / 8,10	18	県立浦添（沖縄）
2回戦	釧路西（北海道）	14	4,10 / 17,25	42	県立大分鶴崎（大分）
1回戦	県立水海道第二（茨城）	28	12,16 / 7,6	13	県立倉敷中央（岡山）
2回戦	県立水海道第二	16	8,8 / 14,10	24	名古屋短期大付属（愛知）
3回戦	県立盛岡第二	24	12,12 / 7,6	13	県立浦添
3回戦	県立大分鶴崎	24	11,11（延長）1,1 / 9,13（延長）2,3	27	名古屋短期大付属
準々決勝	県立盛岡第二	19	10,9 / 11,12	23	名古屋短期大付属
準決勝	小松市立	19	10,9 / 10,11	21	名古屋短期大付属
1回戦	初芝橋本（和歌山）	12	6,6 / 12,10	22	聖和学園（宮城）
2回戦	県立松橋（熊本）	15	6,9 / 4,9	13	聖和学園
2回戦	県立福井商業（福井）	24	13,11 / 7,5	12	県立川崎北（神奈川）
2回戦	山陽女子（広島）	10	5,5 / 11,9	20	夙川学院（兵庫）
2回戦	県立栃木商業（栃木）	22	8,14 / 10,10	20	県立益田（岐阜）
3回戦	県立松橋	19	9,10 / 13,16	29	県立福井商業
3回戦	夙川学院	15	7,8 / 7,5	12	県立栃木商業
準々決勝	県立福井商業	18	9,9 / 5,3	8	夙川学院
2回戦	昭和学院（千葉）	22	9,13 / 3,5	8	県立大曲農業（秋田）
2回戦	純心女子（長崎）	23	13,10 / 3,9	12	札幌月寒（北海道）
2回戦	県立高松商業（香川）	14	7,7 / 9,13	22	県立氷見（富山）
1回戦	県立富岡東（群馬）	15	8,7 / 12,10	22	筑紫女学園（福岡）
2回戦	筑紫女学園	16	9,7 / 8,11	19	四天王寺（大阪）
3回戦	昭和学院	28	12,16 / 5,10	15	純心女子
3回戦	県立氷見	16	9,7 / 10,7	17	四天王寺
準々決勝	昭和学院	7	5,2 / 6,6	12	四天王寺
準決勝	県立福井商業	17	5,12 / 3,8	11	四天王寺
決勝	名古屋短期大付属	11	6-10 / 5-15	25	県立福井商業

■決勝

県立福井商業　25 (10—6 / 15—5) 11　名古屋短大付

常勝名短付対全国でもレベルの高い北信越代表福井商の決勝戦。1—2—3防御の名短付に対し、フットワークを生かした高い壁での一線防御の福井商。前半立ち上がり、カットインで福井商がリードすれば、名短付は速攻と左のミドルシュートで対抗、今大会随一の身長を誇る谷口のポストプレー等で前半中盤5—3の好ゲームであったが、シュートミス・オーバーステップ等のミスを福井商は速攻で着々と加点し10—6で福井商リードで折り返す。後半に入っても名短付は福井商の守りを崩せず、パスカットからの速攻・ポストプレー等でリードを広げられる。名短付も鍛えられた脚力で速攻・サイドシュート等で対抗するものの、地力で勝る福井商業の圧勝であった。

「部活衰退は新世紀の危機」

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

ハンドボールがメジャースポーツの仲間入りを果たした！と言うのは少々早合点だろうか。と言うのも、先日のことだ。知人から「マンガ週刊誌にハンドボールが登場したぞ」と聞かされた。野球やサッカー、バレーボール、バスケットボールなどはこれまでも数多く見かけたが、ハンドボールを題材にした話は聞いたことがなかった。

さっそく近くのブックセンターに出掛け、立ち読みとなった。何冊か探していくうちに確かにあった。でも、残念ながら内容には少々がっかりしたが…。でも、話題にならないよりは、当然なった方がいいに決まっている。これをきっかけにハンドボール人気が出てくれば、万々歳である。これからも時々、チェックしてみたいと思っている。

その一方で寂しい話を耳にする。高校界では部活が衰退の一途をたどっているという。大げさにいえば、大変な危機に直面しているといえる。理由はいろいろあろう。指導者の不足、そして厳しい受験戦争である。とくに受験戦争は避けて通れない切実な問題である。授業をはさんで朝と放課後の練習、それが終わって今度は塾通い―。これでは身体がもたないのは当たり前だろう。

もうひとつは、以前は各学校に必ずといっていいほどいた熱血先生も今ではあまり見かけなくなったことだ。

ハンドボールも例外ではない。ある高校の指導者が嘆いていた。「３年生が卒業したらメンバーが足りない」。これでは試合はおろか、練習さえもまともに出来ない。

98年度の高校１校あたりの部員数は、16.6人と言う。多いと思うか、少ないと思うかはともかく、このような状況では先のチームが組めない嘆きは納得できよう。

外部指導者の導入や総合型地域スポーツクラブの育成等の対策は講じられてきてはいるが、完全に動き出すまでにはある程度の時間の経過が必要だ。スポーツをしなければ、体力の低下は避けて通れない。人間生活の中で最も大切なのは健康体である。スポーツの喜びさえも知らない世代が増える危機である。21世紀が目の前に迫っているが、身体をつくるためには部活は欠かせない一つの手段だ。ハンドボールだけでなく、何でもいい。とにかく部活の必要性を声を大にして訴えることである。その音頭をハンドボール愛好者がとれば、なおのこと言うことはない。

列島縦断【沖縄県の巻】

日本最南端でのハンドボール大会



沖縄県・八重山ハンドボール連盟会長　荷川取　孝吉

日本協会機関紙関係者から突然、電話が掛かってきた。機関紙の列島縦断で、八重山ハンドボール連盟の紹介をしたいので、原稿を送ってくれとのこと。「非常に困った。」でも「うれしかった。」理由は別に変わったこと、ユニークなことなどしてなく、紹介する業績・実績もない、ただの田舎の連盟であるからだ。

それなのに他県に知られているという喜び、語学の才もない身なれど筆をとってみた。

●技術の向上、普及と親睦をめざして

28年前、八重山でハンドボールの好きなもの同志が集まり、ハンドボールの競技力の向上と普及それに親睦を深める意味で結成されたのが現在の連盟である。結成当初は、本島(沖縄県)より430kmも離れている小さな離島(人口4万余)でハンドボール競技をするにはハンディがあった。競技規則、審判法など講習会に参加し、翌年、県大会に出るとすでに競技規則、審判法は改定………惨めなものであった。

●高校生のレベルは県内では上位

現在は飛行機も飛び、県審判長である南正二先生による審判講習会が毎年行われており、県内では技術面もかなり高く、地元八重山高校はこの5～6年では県高校新人戦、高校選手権と各々2回とも準優勝してます。

●連盟の行事(みんなで楽しくハンドボールをしよう)

行事は月1回の割合で大会が持たれます。登録人数120人程度でありますが、社会人大会、高校生を含めた総合大会、職域大会等、それに、地元中・高生の大会（中・高体連）に審判を派遣します。

役員は忙しい毎日です。

連盟の行事で特筆？されるのは先島親善大会、この大会は離島である宮古島と石垣島で離島のハンディを乗り切るため、それに親睦を深めるために毎年交互に開かれるもので一般男子2チーム、壮年チーム・女子チーム各1チームを出し、昼はゲーム、夜は親睦をかねて酒飲み大会で、歌あり、踊りあり……。それはそれは誠に楽しく、両先島の選手にとっては待ちどおしい大会です。今年で22回目を迎えます。

つぎに特筆？されるのが連盟の家族触れ合いピクニック（運動会）です。常日頃、奥様方に世話になっている、迷惑をかけている家族に慰労を兼ねてピクニックを連盟として催します。その時、昼食時バーベキュー等をします。準備はすべて父親の役目です。130～150人ほど参加します。他の連盟からうらやましがられ、ハンドボールファミリーと呼ばれています。



また地元新聞社主催による総合大会が3月に開催されます。この大会は地元各チームが沖縄で活躍している選手を補強名目で呼び寄せます。学生が春休みで帰省します。宮古島チームも2～3チーム参加します。小さな離島の国体さながらの大会になります。今年は男子一般チーム20チーム、女子チーム5チーム、小学生チームが男子3チーム女子3チーム計31チームが参加しました。

人口4万人余りの島でこれだけのチームが参加したことを誇りにしています。

●生涯スポーツに向けて

いろいろと課題も多く、問題点もありますが、ハンドボールを楽しみ、生活を明るく豊かに、そして健康で過ごしたいものです。

平成10年度レフェリーシンポジウム（2）

レフェリーと指導者との両立

三枝慶彦氏
講演より

平成10年度のレフェリーシンポジウムが2月27日（土）、28日（日）の両日に渡って行われた。前号に掲載できなかった、三枝氏の講演録を以下に掲載します。三枝氏は、指導者としては全国大会の常連監督として、レフェリーとしても国際審判員として活躍されました。現在は、山梨県民スポーツ事業団で指導的立場で活躍なさっています。

講演要旨

前の講演で杉山氏がファンの立場からレフェリーについて話をされましたので、私は指導者の立場からのレフェリーについてお話をしたいと思います。

私がレフェリーを始めたきっかけには2つのことがあります。1つは先輩の斎藤、千野先生の笛を見たことです。私が高校生だった時、斎藤先生に吹いてもらったときには必ず勝てました。これは有利に吹いてもらったということではなく正しく吹いてもらえたからです。もう1つは高校生の先生の中に体育の教員以外で頑張っておられる方が多くいたということです。埼玉で教員をしていた時には、1日に7試合あり、自分のチームが3試合で、残りのゲームで審判をするといった状況でした。体育の教師の自分が審判をやらない訳にはいきません。そして何より、レフェリーの勉強がチーム作りにも役立つと考えたからです。

私は、チーム作りとは型にはめることだと考えています。しかしながら、型にはまったチームは一度崩れると意外にもろいものです。また、好い選手を預かった時には楽しい反面、本当に教え育てることができるのか不安になります。このような悩みがあってもチーム作りは楽しいもので、強いチームの時には学校も理解してくれますし、親もバックアップしてくれます。しかしながら、ゲームを左右するのはレフェリーでした。どんなに良いチームを作り、試合に臨んでも、レフェリーの判定で涙をのんだ経験も一度や二度ではありません。

私の教員生活は主としてハンドボールを中心に回っていたと言っても過言ではありません。年休もほとんど取らなかったし、たまに取る年休もハンドボール絡みでした。性格が細かいせいか、出張しても必ず放課後は学校に戻ります。常にグランドにいるせいで、いつも顔は真っ黒で、よく土建屋さんに間違えられました。だからといって、ハンドボールのことばかり考えていたわけではありません。周りにも多くの気を使いました。やはり生徒は学業をおろそかにしてはいけないと思い、たとえ合宿中であっても塾があれば行かせますし、夜も勉強会を行います。生徒の家族の理解が得られなければ



講演を行う三枝慶彦氏

チーム作りはできません。また、担任とも進路指導などの協力体制をとり、部活動のバックアップをしてもらわなければいけません。そして何より、管理職との関わりも大事だと思います。

次に、実際のゲームの中に監督としてみたレフェリーについて述べたいと思います。まず、相手は高校生なのですから、あまり権威的に成らず謙虚であって欲しいと思います。堂々としているのと謙虚であることは違います。次に、判定は正しくあって欲しい。スピードで押し切られて、弱いチームが不利になることがよく見られます。罰則は段階的に適用し、警告をうまく使って欲しいと思います。チャージングとプッシングの見極めや、ライン内防御が押し込まれたのか、意図的に入ったのかなどゲーム内の現象を正しく判定してもらいたいものです。そして、ゲーム中はゲームに集中し、決してミスジャッジをニヤニヤして誤魔化したりしないで下さい。

最後に、教員であり、指導者であり、レフェリーである方々にお願いが2つあります。1つは教育の専門家になっていただきたいということです。最近は学級崩壊が社会問題にもなっています。学校の教員は教科の専門家であることはもちろん大切ですが、ぜひ教育の専門家として生徒の指導に当たっていただきたいと思います。2つめは、生徒を一面的に見ないで頂きたいということです。勉強さえできれば体育ができなくても怒られないのに、体育ができても勉強ができない生徒は怒られる。これは見直していただきたい。生徒の個性はいろいろであると思います。

いろいろ話がとびましたが、ご静聴ありがとうございました。

連載② 世界の技術・戦術を学ぶ

—World Handball Magazineより—

指導委員会

４月号からの連載は、「世界の技術・戦術を学ぶ」と題して、IHFより発行されるWorld Handball Magazineのなかの技術練習として取り上げられている部分を、指導委員会を中心に多くの情報担当者の協力を得て訳していただき、それを構成して多くのハンドボール関係者のみなさまへ情報を提供しようとするものであります。

今月号は、前号の速攻の基本的な考え方と基礎練習内容に続き、速攻に関する組織的な導入へと発展していくものであります。

（指導委員会　笹 倉 清 則）

指導委員会、技術指導部・情報担当
扇 山 貴 司（筑波大学大学院）
水 上 　 一（筑波大学）

速攻トレーニング

簡単な速攻構想の方法的導入

IHF技術委員　Dietrrich Spate

※この中でのポジション表記は参考図のようにドイツ語表記に統一する。

> ある構想に基づいた速攻とは、以下のような内容をもっている。
> - 有効で効果的なボールの選び方とプレイヤーの走るコース
> - 決まった攻撃エリアの占有
> - 速攻活動での多くの課題の区分

□速攻ではスピードがその核となる

速攻状態でのすべての攻撃プレイヤーへの課題は、何よりも明確に、簡単に課されることになる。そうすることで、この複雑なゲーム状況で、全ての攻撃プレイヤーはより速く、より有効で最終的には成功度の高い行動ができるようになる。速攻は前もって組織化される必要があるが、「組織化されすぎ」てもいけない。なぜなら速攻は「プレイヤーの創造性」によるところも多いからである。それゆえ、速攻構想は相手に簡単に見抜かれるような一つの硬直した型にとらわれることのないようにすべきである。

速攻構想は単にプレイヤーにとっての学習の手助けとなるものであり、具体的なゲーム状況における、その時々の相手のプレイヤーの行動に対して柔軟にそして多様に合わせられるものでなくてはならない。

□速攻構想の構成要素

図１は速攻構想での４つの中心となる構成要素を詳細に記したものである。

その際、ボールの獲得は速攻—何よりも一次速攻—にとって決定的な意義を持っている。速攻トレーニングにおいて、ゴールキーパーの素早いボールコントロールは特に重要であり、跳ね返ってくるボールやブロックされたボールをすぐさまとることが要求される。ボールの獲得と同時に重要な攻撃行動が始まる、つまり一次速攻に参加するプレイヤー（サイドプレイヤー）によって行われる（図２）。又、積極的に動くという役割を持った防御プレイヤー、例えば３－２－１防御でのトップに位置するプレイヤー（図２参照）も同様に一次速攻に参加する。なぜなら、そのような防御プレイヤーは自分の防御ポジションですでに空間的な優位を持っているからである。

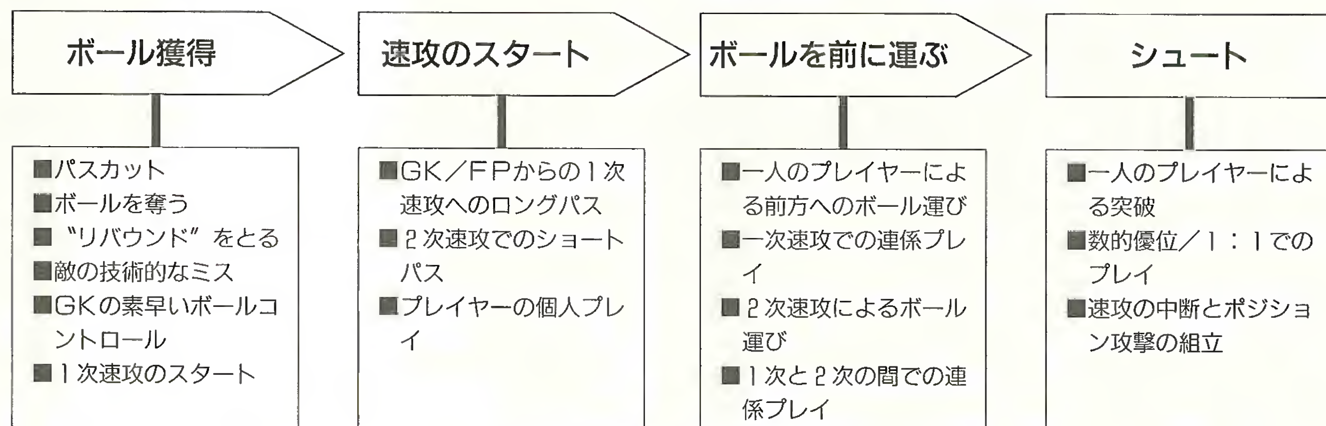
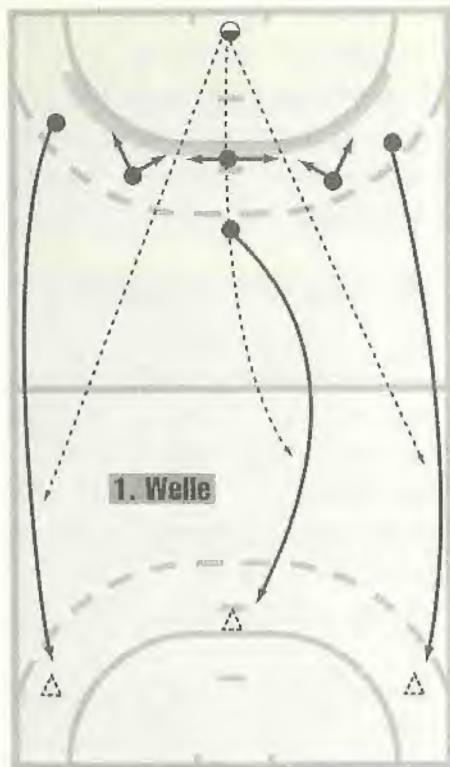
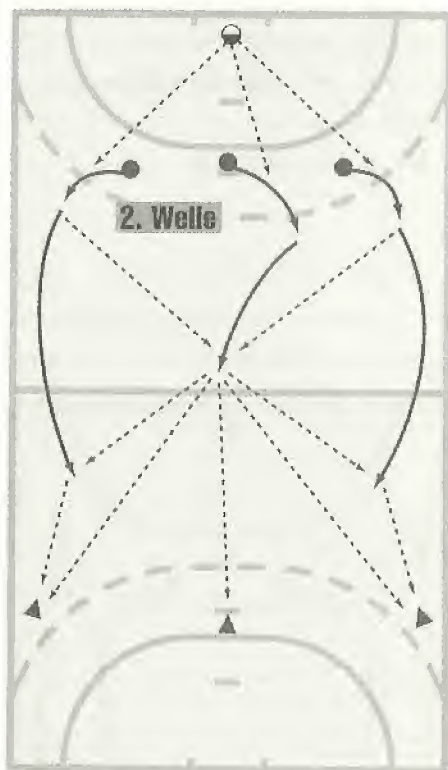


図１　速攻構想の基礎



〈図2〉



〈図3〉

一般に一次速攻のプレイヤーは両サイドプレイヤー、ポストプレイヤーであり、攻撃における自分たちのポジションに走り込むようにする(図2)。ここでは、一次速攻に参加するプレイヤーにとっては、例えば、相手プレイヤーのシュート動作時でのはやい時期に速攻に出ることや、二次速攻のプレイヤーにとっては、まずシュートリバウンドボールをとることができるように、ゴールエリア空間を確保することが特に重要となっている。

開始局面では、まずどこにパスをすべきかが、次に自陣コート内で相手プレイヤーの行動に応じて、どの方向に走るべきかが決められる。その際、何よりもゴールキーパーの動きに注意の焦点をおくようにする。

— 一次速攻のプレイヤーへのロングパス（図2）
— 二次速攻のプレイヤーへのショートパス（図3）
というキーパーの決定は、速攻そのものにとって重要なポイントとなる。

普通、走りながら戻る相手プレイヤーは、多くがコート中央方向に向かう傾向があるので、二次速攻プレイヤーに対してのショートパスは、例えば3—2—1防御で言えば、外側に位置する45°防御プレイヤーに行われることになる。二次速攻プレイヤーにとって他に重要なことは、以下のようなことである。

— ノーマークの状態になる
— ゴールキーパーとのアイコンタクトをとり、ボールを受け取る準備ができていることを知らせ、素早いショートパスが可能なようにすべきである。

もし速攻をショートパスで始めようとするなら、前方へのボール運びは二次速攻プレイヤーの主要な責任となってくる(図3)。その際、プレイヤーは危急の場合を除いては1対1のプレイヤー、連続ドリブルをしないようにするべきである。

図3や図4でわかるように、二次速攻のプレイヤーは、バックコートの各々のポジションで動くことになるが、当然のように、その動きは相手の行動に応じたものになる。

もし速攻が外側に位置する二次速攻プレイヤーへのゴールキーパーからのショートパスで始まれば、次のパスは前方へのロングパスが可能となる。(むろん相手プレイヤーの行動の仕方によるが）その前方へのロングパスによって二次速攻はセンターラインを越えることになり、次のプレー



はゴールを狙った終末行動が可能になってくる。

その際、以下のような原則が重要である。

○二次速攻の各プレイヤーは、ボールを得るとき、もし前方に位置する一次速攻プレイヤーがボールを受け取る準備ができていたら、ロングパスをする。その際、必ずアイコンタクトをとるようにする。

○バックコートセンター（RM）ーチームの約束の中で、二次速攻の中央に位置するプレイヤー（図４）は速攻の「最後のプレイヤー」であり、常に他の攻撃プレイヤーから、パスのしやすいポジションをとるようにする。そのためには、バックコートセンター（RM）は、二次速攻の他の２人のプレイヤーよりもいくらか後方に位置をとるべきである。

○速攻が一次速攻プレイヤーへのロングパスで始まったら、ボールを持たない二次速攻プレイヤーは素早く外側に開いて走るようにする。一次速攻でシュートの可能性を得ることができなかったら、二次速攻のプレイヤーにボールを戻すようにする。そうすることで速攻をダイナミックに継続することができる。

速攻での終末局面の主たる問題は、防御プレイヤーによって攻撃活動を阻止されることである。それゆえ、速攻基本構想の中で防御プレイヤーを段々に動かすようにする。（図４）

ー第一の攻撃ライン：一次速攻のプレイヤーとしてサイド、ポストのポジションをとる。

ー第二の攻撃ライン：一次速攻プレイヤーの後方に「ぶら下がっている」バックコートプレイヤー、ＲＬ（左45°プレイヤー）とＲＲ（右45°プレイヤー）。（二次速攻）

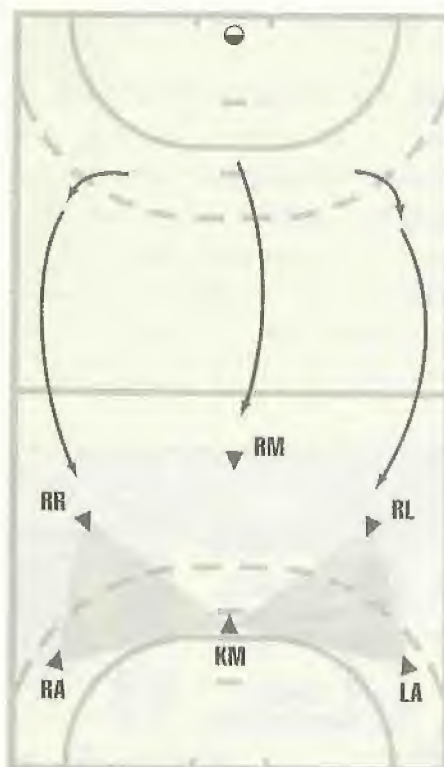
ー第三の攻撃ライン：両バックコートプレイヤー（ＲＬとＲＲ）の後方に位置する「リベロ」としてのバックコートプレイヤー（ＲＭ）

その際、不必要なポジションチェンジは避けるようにする。

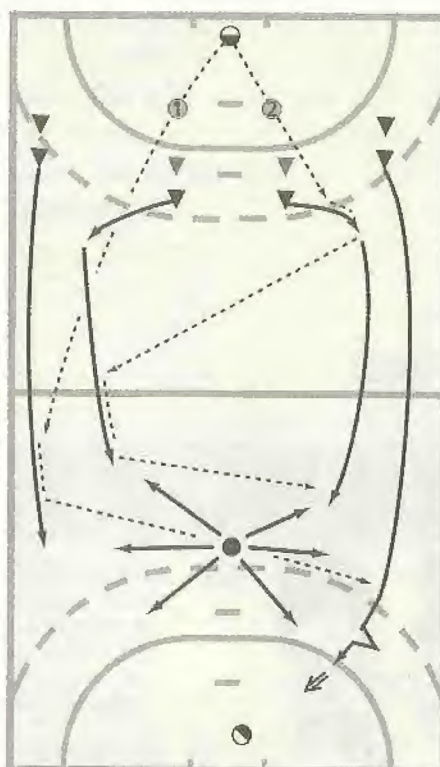
図４に図示されているように、二次速攻のプレー押し上げ次第で、数的優位を得るか、１対１状況のままかが決まり、何よりも左右の攻撃サイドの三角形を作る３人のプレイヤー間で、グループ戦術を用いた効果的なプレーが展開される。ここでは、例えば、速攻を中止したり、セットプレーへ移行するときのプレイヤーに対する共通の合図（シグナル）（例えば、ＲＭへのパスとか、ドリブルするとか）をあらかじめ決めておくことが必要である。

ヒント

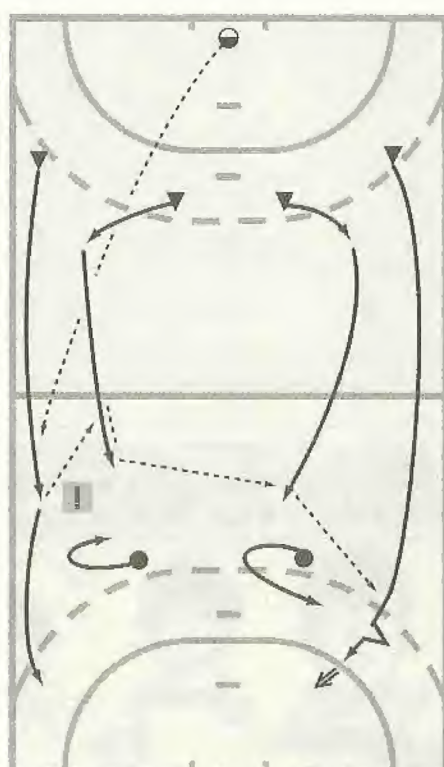
○一次速攻にどれだけのプレイヤーが参加するかは、そのチームの防御体型と速攻に対する基本的準備（積極的・攻撃的あるいは受け身的・安全を優先）がどうであるか



〈図4〉



〈図5〉



〈図6〉

によって決まる。

○防御での各自の基本ポジションによっては、当然のことではあるが、プレイヤーは速攻において「不慣れな」攻撃ポジションを引き受けることもある。しかし、プレイヤーはそのポジションで状況に応じたシュートや突破のバリエーションを使いこなすことが必要である。

トレーニング形態

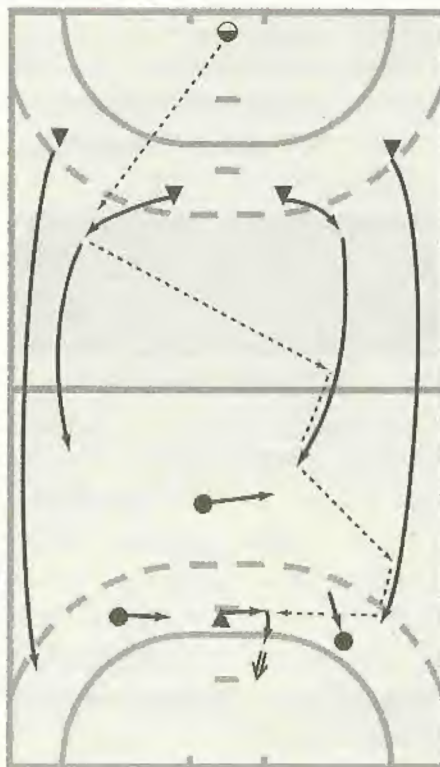
以下に2、3の選ばれたトレーニング形態が示してある。簡潔に示すため、ここでは前方へのボールの運び局面と終末局面のみが分かるようになっている。

'94の2月号 (Handball training) で示したように速攻のトレーニングはゲームに近づけた簡単なプレー（3対2、3対3、4対3等）から始めるようにする。

基本原則

①一次速攻は、少なくとも両サイドを走る2人のプレイヤーによって行われなければならない。

②積極的に動く役割をもった防御プレイヤー（例、あるプレイヤーをマンマークしている防御プレイヤー）は、一次速攻に参加するべきです。(すでに自分の防御ポジションで空間的に優位であるから)



〈図7〉

③速攻では、できる限りプレイヤーはセット攻撃での自分たちのポジションに走りこむようにするべきである。

④速攻では、常に味方プレイヤーもしくはボールを保持しているプレイヤーとアイコンタクトをとりなさい！

⑤ボールを保持していないプレイヤーは、味方プレイヤーからパスがもらえるように動かなければならない。

⑥パスはドリブルよりも速くボールを運ぶことができる。

一次速攻と二次速攻を別々に行う

○2対1のプレー（図5）

両サイドプレイヤー（一次速攻）と2人のバックコートプレイヤー（二次速攻）が交互に、まず、消極的に守る防御プレイヤーに対して2対1を行う。

（バリエーション）

1．ワンドリブル／連続ドリブルを用いない。

2．防御プレイヤーは積極的に守る。(例えばセンターライン付近まで出る)

一次速攻と二次速攻を組み合わせて行う

○4対2のプレー（図6）

両サイドプレイヤー（一次速攻）と2人のバックコートプレイヤー（二次速攻）とで、まず消極的に守る防御プレイヤーに対して4対2を行う。ここではサイドへのロングパスで速攻が始まるが、サイドプレイヤーは押し上げてくる二次速攻のプレイヤーにパスを返す。その後はシュートチャンスを得るまで、フリーで攻撃がなされる。

（バリエーション）

1．防御プレイヤーが積極的に守る＝二次速攻プレイヤーに対してのショートパスに対して

2．4対3のプレー：1人の防御プレイヤーはセンターライン付近でプレイする(観察するべき要因を多くする)

○5対3のプレー（図7）

一次速攻にポストプレイヤーを加えて前と同じように行う。ここでは左サイド（LA）—左45°（RL）—ポスト（KM）との三角形のもとでのグループ戦術を利用することが強調される。

（バリエーション）

1．1人又は2人の防御プレイヤーはより積極的な役割を持つ

2．5対4のプレー

ハンドボール競技初のドーピングコントロールを実施

（ANA CUP日本ハンドボールリーグプレーオフ）

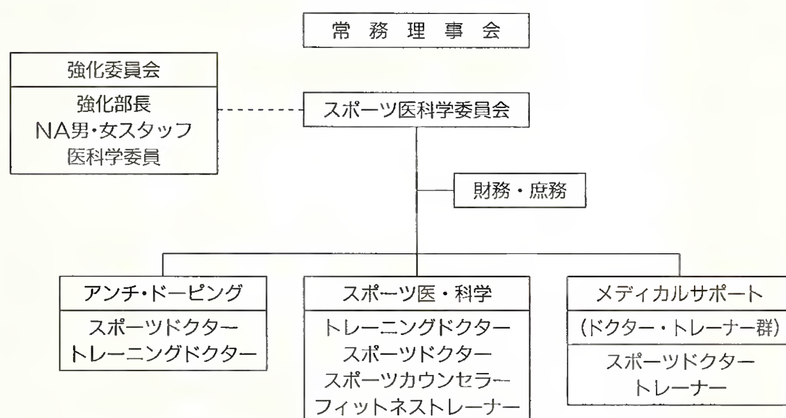
（財）日本ハンドボール協会　医科学委員長・西　山　逸　成

1　ドーピングの現状

現在の（財）日本オリンピック委員会（JOC）、（財）日本体育協会がその立場から日本国内各加盟競技団体を対象に1965年以降アンチ・ドーピング活動として啓蒙・普及・検査が実施されてきた。以前から日本国内で実施されてきたドーピングコントロール（ドーピングテスト）は、海外や日本国内で推進されてきたオリンピック大会・アジア競技大会に日本代表選手を派遣する場合と、日本国内で開催された国際競技でAHF（アジアハンドボール連盟）やIHF（国際ハンドボール連盟）から義務づけられた場合のドーピングテストの実施のみに限定されていた。

しかしながら1994年の広島第12回アジア競技大会で中国選手に11名の違反者の発生、1996年アトランタオリンピック直前に日本代表（陸上競技）選手の競技外ドーピングテストの陽性反応（メチルテストステロンmethylteststerone蛋白同化剤）結果による国際陸連からの４年間の資格停止処分、またハンドボール競技においても1997年熊本世界選手権大会でS・AチームZ選手のフェニールプロパノールアミン（Phenylpropanolamine交感神経興奮作用—感冒薬にも含まれており、多量投与により精神高揚、血液増加し、副作用として血圧上昇、頭痛、心拍数増加と不整脈、震え）の検出による“選手のみ大会出場３ケ月間停止処分（IHFドーピング規程IX章11条）、1998年バンコクアジア競技大会では薬物違反者４名でカザフスタン選手に大麻、アラブ首長国連邦（UAE）選手の中東勢に筋肉増強剤の検出、1999年前橋陸上世界室内選手権大会では、男子三段跳びのロスティスラフ・ディミトロフ選手（ブルガリア）のエフェドリン（ephedrine麻黄：葛根湯など総合感冒薬）の検出による国際陸上競技連盟から銀メダルのはく奪処分等が多発した。

表１　アンチ・ドーピング組織・機構図



以上の例示のように国内外ともにドーピング汚染の増加傾向から平成８年度以降JOC事業の一環として各競技団体主体のドーピングテストが実施されることになり、ハンドボール競技も平成11年度の12実施競技団体の一つとして競技会時の実施が認められた。実施競技団体の実施条件は、「ドーピングコントロールに関する規約及び組織機構図・担当者名簿」（表１）を設定していることであった。

2　日本国内競技種目団体におけるドーピングコントロールの問題点

１）日本国内ではスポーツ競技におけるドーピングコントロールの方法論をすすめても、日本国内の薬物汚染が社会問題化して先行している現状では、アンチ・ドーピング対策に限界があってスポーツ界だけでは法体制、教育等の面で対応できない。全日本ハンドボール選手のアンチ・ドーピング活動やドーピングコントロールについての普及指導も現状では海外派遣直前の１時間講座の域を出ないのが現状である。

したがって全日本級選手でも常備薬としての感冒薬、漢方薬やさらには、栄養補足食品、ドリンク類を選手やチームが軽易に習慣的に摂取している状況がみられるが、禁止薬物のエフェドリンやカフェイン等の混入が否定できないのでアンチ・ドーピングについての啓蒙は急務である。

２）日本国内に上訴機関がないので、厳正（厳格・公正）な検査と適正な処罰に対して選手の権利と立場を守る上訴・調整機能が確立されていないので、初回実施からIHFやIOCのアンチ・ドーピング罰則規程を適用することには更に期間が必要である。

したがって平成８年度JOCのドーピングテスト事業を見送り、10年度試行規則（罰則条項）を検討・整備した。（表２）

表2　ドーピングコントロール試行及び暫定測別（常務理事会承認）

年度	普及講習会	ドーピングテスト実施対象大会	対　象　数	ドーピング規程他	JOC (OCT)	IHF AHF IOC
1997	世界選手権 派遣前 NA所属2チーム	NA男女所属チームの試行 （トレーニング）	男1チーム　(10名) 女1チーム　(10名)	(案)の改定を検討		
1998	NA所属チーム	トレーニング トレーニング 日本リーグ・プレーオフを検討したが未実施	男4チーム　(10名) 女4チーム　(10名) 男女　(20名)	学生男子 Jr男女 3/20　女(4)男(4) 3/21　女(6)男(6)	アジア大会 (12月)	世界学生 (女子6月・男子12月)
1999	大会参加チーム スタッフ、選手	1、日本リーグ、プレーオフ 2、JOCアジア主催大会派遣選手に実施	〃	JHA規程作成		オリンピックアジア予選 世界選手権 女子N　11/18～12/12 NOR 女子Jr　8/1～15 CHN
2000	大会参加チーム スタッフ、選手	全日本学生、全日本総合 日本リーグプレーオフ	〃	JHA規程改定・検討	シドニー オリンピック	
2001						

（1）違反者に対する罰則規程（JHA）1997―1999

競技者のドーピング違反が発見された場合当該チームの説明を受けJHA規程案JHAドーピング規程（科学委員、強化委員等で構成）との協議後、当該チームの選手及び関係者スタッフ全員に対しアンチ・ドーピング講習会が実施される。

最大限3ヶ月間（ドーピングテスト実施日から算定）のJHA公式大会に出場停止する。

それ以降の大会で再度ドーピング違反が発見された場合、IHF規程・IOC規程の適用について協議する。

ドーピングコントロールについて協議の必要がある場合は、JHA組織「アンチドーピングプロジェクト」において協議し、常務理事会の議を経る。

（2）IHFの制裁規定

①ドーピング違反が確認された場合、違反した選手はその大会の残りの試合に出場する資格を失う。また国内大会及び国際大会への2年間の出場停止処分を受ける。

②もし選手が対ドーピング規程を2度違反した場合、当該選手は国内大会及び国際大会への4年間の出場停止処分を受ける。

③もし同じチームの中で一人以上の選手がドーピング規則に違反した場合、当該大会に対して失格となる。すでに行われた試合の結果は無効となる。

④IHFは許可されていない薬物を供給した者に対して、懲戒処置を取る権限を保留している。もしドーピング規程違反が確認された場合、役員（コーチ、マネージャー、医師、マッサージ師）も2年間の出場停止となる。

3　ANACUP 第23回日本ハンドボールリーグプレーオフ大会での実施

1）ドーピングテストの実施は「ANACUPドーピング検査班」をスポーツ医科学委員会で次のように編成した。

検査班長（実施責任者）：検査班全般の運営責任者、選手の試合出場・得点状況・言動状況の確認と観察、選手の抽出・指名。検査結果に基づく処理。

検査室長（検査主務者）：検査室の管理主務者、検査班員の指導・監督、各種検査紙の記入・確認、尿検査の確認他。

検査ドクター：検査の担当、検査室内の選手・同伴者の監督、検査の実施・監督。

検査係：採尿の補助・監督、尿検査。

通告・誘導係：指名選手への通告・誘導・監視。

検体輸送係：三菱化学BCLドーピング検査室への輸送（2名で運搬）。

※検査係、通告・誘導係は選手と同性でなければならない。

2）ドーピングテスト対象選手の抽出

検査班長（またはAHF、IHF／MCメンバー）は、機能を十分に果たすため、大会のテクニカルメンバーと共にオフィシャル席でドーピングオフィシャルとして試合運行を通じてレフェリーの判定による選手の反則・得点状況、選手のコート上の入・退場、言動等を観察し、同席のテクニカルメンバーと記録・確認することになる。

（1）ドーピングテストの抽出対象選手の本大会での基準はIHF基準（予選リーグでは両チーム各1名、決勝トーナメントでは各2名）ではなく、経費面を考慮し、男子・女子決勝戦において両チーム各1名の計4名とした。

（2）対象選手はその試合にエントリーされベンチにいる選手全員ではなく、実際に試合に出場した選手のみが対象となる。（IHF：5．1、JHA：5．1（2）③）

（3）対象選手の抽出は、エントリーされたスタッフ（ドクター、トレーナー、コーチ等）により「くじ」で抽出されるが、更にしかるべき理由がある場合（最多得点、異常な興奮的言動等）や抽出終了後に試合出場した選手は指名によりドーピング検査に応じなければならない。（IHF：5．1、JHA：5．1（2））

（4）「くじ」は検査班長により試合終了5分前にAチー



ム、3分前にBチームのそれぞれのスタッフに提示され、各チームスタッフの引き当てた選手番号を通告・誘導係が「ドーピングコントロール要請書」に記入し、試合終了直後に選手に通告し、同意サイン記入後1時間以内（取材・表彰式を含む）にドーピング検査室に誘導することになる。もちろん選手がドーピングテストを拒否したり、ドーピング検査室で採尿を拒否した場合は“ドーピング検査陽性”と判定され、罰則・制裁を受けなければならない。(IHF：5．1、6、7、JHA：5．1（3）③、6、7）

3）ドーピング検査

（1）ドーピング検査室への立ち入りは、IOC、IHF、AHF／MC、ドーピング検査班員および選手と同伴者(チームスタッフ）に限定されている（IHF：5．2、JHA：5．2（4））。ドーピング検査室には、検査室（検査台、冷蔵庫)、待機室(安楽ないす、蓋付きの飲み物、ドーピング手順資料、TV等)、およびトイレ（採尿)、シャワーがあり、互いに通じていることが望ましい（IHF：5．2、JHA：5．2)。ANACUP大会では組織委員会の配慮により検査条件を備えた標準タイプであった。

（2）ドーピング検査室における検査の実施は、「ドーピングコントロール記録」の手順で実施された（IHF：5．3、JHA：5．3)。検査の終了時には、検査ドクターから必ず選手（チームドクター）に対し「最近（72時間以内）使用した薬品があれば申告してください」と質問されるのでチームドクターはあらかじめメモまたは「医事（療）申告書」を準備しておくとよい。選手（チームドクター）が使用薬品の申告を拒否した場合は“申告拒否”と記入される（IHF：5．3、JHA：5．3（13))。IOCアンチ・ドーピング規程では、たとえ感冒のための医療行為であっても、興奮剤として禁止薬物のエフェドリンが含まれている葛根湯（漢方薬）等は使用できないのは当然である。

4）分析機関(IOC認定の三菱化学BCLドーピング検査室ー世界25ケ所）への検体（尿）の輸送

輸送はドーピング検査班の2名の検体輸送係（ANACUP大会ではドクター2名による搬送。JOC規程のコンテナー)が担当した。搬送時に携行する書類は、「ドーピング検体引き渡し書兼受領書」および「ドーピング検査室記録」である。

5）分析結果の判明

（1）分析に必要な時間は分析機関に搬入後24時間以内が基準であるが、本大会での検査実施が3月21日（日曜日)、22日が祭日であったため、分析実施は採尿3日後、分析結果は採尿4日後の3月24日（水曜日）夕刻に分析機関の三菱化学BCLドーピング検査室長から本大会ドーピングテスト検査班長に「全検体とも異常なし」との通知によりJHAとJOCに結果報告した。

4 アンチ・ドーピングの国内外現況と対策

ハンドボール競技としての初回ながら円滑にドーピングテストが実施できた背景には、(財)日本ハンドボール協会関係者の時機に適した英断とANACUP第23回日本ハンドボールリーグプレーオフの大会組織委員長（山下泉氏）以下の理解と協調があったればこそと考える。

1）日本のアンチ・ドーピングに対する国際的な評価（スポーツコーチサミット1998．3：東京）では、①「日本はアンチ・ドーピングに積極的に取り組んでいない。その理由はオリンピックや世界選手権等多くの国際的な大会を開催しているにもかかわらずドーピング検査数が極端に少ない。ドーピング検査の厳格な海外選手からみれば②検査機会の少ない日本選手と競技するのはフェアではない。オーストラリアのトップアスリートは年間7～8回の競技外ドーピング検査を受けている。」

日本スポーツ界のドーピング検査数の少なさの第一の理由は、検査料や施設整備費そして検体運搬費等の経費面と、第二には、ドーピングコントロールの本質が禁止薬物使用者の検出にあるのではなく、ひたむきに自分の能力限界を追求してプレーする善良なる選手の擁護であることを理解しないことによるドーピングコントロール事業の削除であろう。

2）中国五輪委員会は'94年広島アジア大会、'98年のパース世界選手権で競泳選手のドーピング違反選手が頻発した対策としてドーピング違反者ゼロを期して“4ない運動”(①検出できない薬物でも使わない②金メダルが取れても使わない③他国が使っても使わない④誰が使えと言っても使わない)のスローガンを掲げ、'98年1年間に3,600件のドーピング検査の実施結果、陽性者をチーム代表から除外したと言われている。(参考：読売新聞'98．12)



3）ハンドボール競技における今後の方向

（1）平成10年度に引き続き日本リーグ時に実施するとともに、全日本総合選手権でも試行する。アンチ・ドーピング（啓蒙と普及対策）としては、全日本チームの派遣前講習会を継続して実施する。

（2）JOCアンチ・ドーピング対策班との連携によるJHAアンチ・ドーピングの体制としての機能組織を整備する。

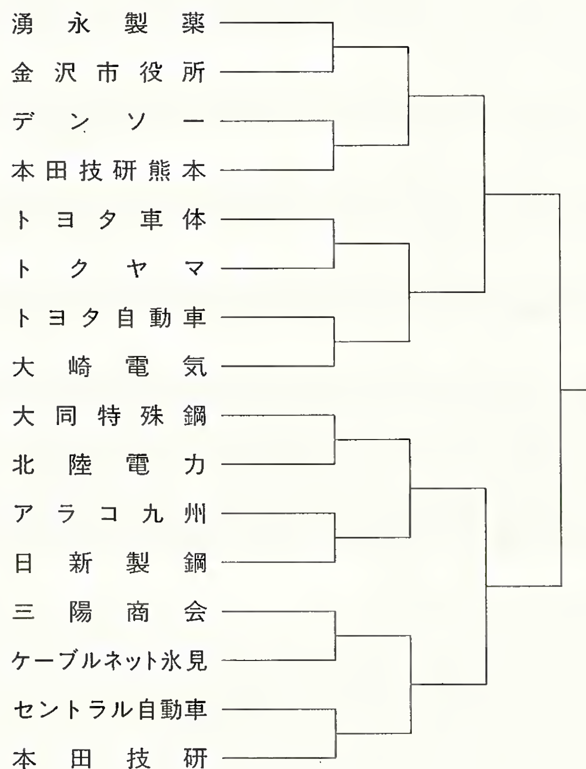
（3）現行のJHAアンチ・ドーピング規程をAHFおよびIHFと連携し改正整備する。

第40回記念高松宮杯全日本実業団ハンドボール選手権大会要項

1．主催　（財）日本ハンドボール協会、全日本実業団ハンドボール連盟
2．主観　大阪ハンドボール協会
3．後援　大阪府、大阪府教育委員会、大阪市、大阪市教育委員会、朝日新聞社
4．期日　平成11年4月22日(木)～25日(日)　4日間
5．会場　大阪中央体育館（地下鉄中央線朝潮橋下車2番出口徒歩5分）
〒552-0005 大阪市港区田中3-1-40　☎(06)6576-0800
6．参加資格　全日本実業団ハンドボール連盟の推薦する平成11年度A登録チーム
7．参加人員　責任者1名、監督1名、選手16名（内試合出場は12名）
登録後のメンバー変更は認めない。
8．競技方法　トーナメント敗者復活方式
9．競技規則　平成11年度（財）日本ハンドボール協会競技規則に準ずる。
10．組合わせ　下表の通り
11．試合球　日本ハンドボール協会公認球（モルテン、ミカサ縫いボール）
12．表彰
（1）全日本実業団ハンドボール連盟の発展に著しく貢献された方。
（2）上位3チームを表彰する。
（3）功労賞：全日本実業団選手権大会にメンバーとして下記年数を登録された選手。
・男子：10年、20年、25年　・女子：5年、10年
参加申込時に別添書類にて申請のこと。
（4）個人表彰：ベストセブン賞、敢闘賞、最優秀新人賞、最優秀監督賞
13．その他
（1）本大会運営に当り事故防止には十分配慮致しますが、万一不幸にして事故発生した時は、応急処置のみ実施し、以降の責任は負いかねます。
（2）参加者は必ず保険証を持参すること
（3）ユニフォームは2色用意すること
(GKのユニフォームはCPのものとは異なること)
（4）第41回全日本実業団ハンドボール選手権大会への出場権については別途決定し通知する。
（5）体育館でのスプレー使用可で、「松ヤニ」の使用は厳禁します。
（6）入場料は経済事情を考慮し無料としますが各チームに招待券を配布します。多くの応援団が参加されますようお願いします。

組み合せ表

《男子の部》



《女子の部》



13th HANDBALL GAME
女子世界選手権ビデオ

最新世界選手権

── 厳選した熱戦20試合を全収録

各試合7,000円　税・送料別（送料は何巻でも500円）

1997年11月、ハンドボール発祥の地、ドイツで熱狂の観衆のなか繰り広げられた第13回女子ハンドボール世界選手権。デンマークの優勝で幕となったが、アジアの代表として登場した日本はもちろん、韓国、中国も思いっきりの熱いプレーを見せてくれた。

そのうちの熱戦20試合が、スカイ・Aで放映されたが、そのままのクリーンな映像を、編集にあたった株式会社メイスンがハンドボールファンにお届けする。

見た人も見られなかった人も、最新のハンドボール情報を目の当たりにするチャンス。本場の熱狂を肌で感じられるだけでも興奮のビデオだ。１本からでも受け付けている。

■協賛／財団法人日本ハンドボール協会、日本ハンドボールリーグ機構　■制作協力／株式会社スポーツイベント

品番	対戦	解説	時間
◆ 予選リーグ			
WH 1	日本 vs オーストリア	池本 聡氏（ジャスコ監督）	70分
WH 2	中国 vs デンマーク	池本 聡氏（ジャスコ監督）	75分
WH 3	日本 vs ブラジル	平塚一彦氏（シャトレーゼ監督）	70分
WH 4	中国 vs チェコ	平塚一彦氏（シャトレーゼ監督）	75分
WH 5	日本 vs アンゴラ	緒方嗣雄氏（日本協会強化委員）	75分
WH 6	中国 vs ロシア	緒方嗣雄氏（日本協会強化委員）	65分
WH 7	韓国 vs ルーマニア	金原 至氏（立山アルミ監督）	70分
WH 8	日本 vs ポーランド	金原 至氏（立山アルミ監督）	70分
◆ 決勝トーナメント・1回戦			
WH 9	フランス vs ポーランド	矢内 浩氏（大崎電気女子監督）	70分
WH10	韓国 vs チェコ	矢内 浩氏（大崎電気女子監督）	70分
WH11	ルーマニア vs マケドニア	荷川取義浩氏（北國銀行監督）	110分
WH12	ドイツ vs ベラルーシ	荷川取義浩氏（北國銀行監督）	75分
WH13	デンマーク vs ハンガリー	伊藤宏幸氏（全日本女子監督）	75分
WH14	ロシア vs コートジボアール	伊藤宏幸氏（全日本女子監督）	75分
◆ 決勝トーナメント・2回戦			
WH15	ドイツ vs マケドニア	西窪勝広氏（オムロン監督）	70分
WH16	ポーランド vs ロシア	西窪勝広氏（オムロン監督）	70分
◆ 準決勝			
WH17	ドイツ vs ノルウェー	林 五卿氏（イズミ監督）	75分
◆ 5位決定戦			
WH18	韓国 vs クロアチア	林 五卿氏（イズミ監督）	90分
◆ 3位決定戦			
WH19	ドイツ vs ロシア	樫塚正一氏（前全日本女子監督）	75分
◆ 決勝			
WH20	ノルウェー vs デンマーク	樫塚正一氏（前全日本女子監督）	75分

実況アナウンス　池本弘三氏（フリー）



■支払方法

現金書留、郵便振替、または銀行振込による前払いです。まずはお電話ください。

●お問い合わせ、ご注文は

☎03-3542-2135／Fax 03-3542-2107

MAYSON Co.,LTD.　〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目18番16号　株式会社 メイスン

協会ゴールドスポンサーに「サンクス アンド アソシエイツ」決定



1.「サンクス　アンド　アソシエイツ」ゴールドスポンサー決定の記者会見が行われる

日本ハンドボール協会では、この度当協会のゴールドスポンサーとして「サンクス　アンド　アソシエイツ」が決定した事を、3月29日（月）に共同通信社、時事通信社をはじめとする在京記者団に発表した。

同社には、今後日本ハンドボール協会の主催する大会を中心に広告ボード・パンフレット・コート広告等の広告支援、ナショナル・U－23・U－19・U－16・JOCの強化支援、各開催協会への大会支援そして小学生・JOCジュニア・ビーチハンドボール等の普及支援等を行って頂くようになります。

2.「サンクス　アンド　アソシエイツ」とは、どんな会社か？

所在地：東京都港区芝2丁目28番地8号
設　立：昭和55年（1980年）7月23日
資本金：50億8,900万円
店舗数：2,370店（1999年2月末現在）
売上高：3,602億円（1997年度実績・加盟店含む）
系　列：ユニー（株）
サークルケイ・ジャパン（株）
その他

3.男女ナショナル選手のユニフォームにロゴマーク

4月よりの男女ナショナル選手の活動の中でナショナル選手のユニフォームに「ANA」（袖に付いている）に続いて胸に「サンクス」のロゴマークを付けて戦うことになります。

このユニフォームは、4月14日（水）に氷見市で行われた、ナショナルチームVS日本リーグ選抜の試合で着用され、男子は白地に女子は赤地に「サンクス」のマークが大活躍しました。

今後は「サンクス」のマークにバックアップされ男女ナショナルチームが大活躍することを皆様とともに期待したいと思います。

4.「サンクス」のお弁当をたのもう

広告支援・強化支援・大会支援・普及支援等とたくさんの支援協賛を頂くわけですから下記の通り全国の皆様のご協力をお願い致します。

・ハンドボールの関係の皆さんは、コンビニは必ず「サンクス」を利用しましょう。
・各大会の中で使われるお弁当は必ず「サンクス」から買って下さい。
・お弁当の取り扱い等の詳細問い合わせについては、下記の通りです。

【問い合わせ先】
（財）日本ハンドボール協会
住所　東京都渋谷区神南1－1－1
岸記念体育館内
TEL　03－3481－2361
FAX　03－3481－2367

「サンクス」さんに今後永年に恒ってゴールドスポンサーを継続して頂く為には、これからの実績いかんということになりますので皆様のご協力をよろしくお願い致します。

5.スポンサー（協賛会社）に対する考え方

協会では、永い歴史の中でその時の経済状況に応じ、その都度協賛会社が入れ替わってきました。

これからは、日本協会としてのオフィシャルスポンサーを登録し、できる限り継続性がありパワーのあるスポンサーに参画していく努力を続けていかねばならないと考えています。

皆様も情報を協会に寄せて頂き、その情報の基に（財）日本ハンドボール協会としてアタックして行きたいと考えています。

そのような中で今日の「サンクス」をゴールドスポンサーとランクづけ、大切にお付き合いしていきたいと考えています。

これは、各団体連盟、各地方協会に於いても同じように考えローカル性・特殊性のあるものは各々の団体、地方協会で大切にし、ハンドボール界全体のスポンサーとして大事にして行きたいと思っています。

平成11年度から
新会員登録制度
スタート！

がんばれ ハンドボール 10万人会



団結しよう！
ハンドボール・ファミリー

少子化の影響などにより登録人口の減少傾向が各スポーツ界の大きな悩みになっています。昨今の経済不況も深刻さを増すばかりです。

今こそハンドボール・ファミリーが団結する時です。皆さんが自分のチームを愛するように、日本ハンドボールを愛して下さい。登録人口が増え、財源が大きくなれば、小・中学校の普及はもとより、ビーチ・マスターズ・車椅子ハンドボールの支援、ミニハンドボールの普及、また強化の根幹となるジュニア層の重点強化、そして各大会の補助金アップや国際大会の招致などにつながります。

皆さん1人ひとりが主役です。選手、審判、役員、ＯＢ、ＯＧなどに限らず新たなサポーターも募り、全員参加のもとでメジャー化を図り、ハンドボール文化を構築しましょう。

財団法人　日本ハンドボール協会

〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1　岸記念体育館内
TEL.03-3481-2361　FAX.03-3481-2367
http://www.handball.or.jp/

●HANDBALL　FAMILY

	年会費	主な特典
グランド会員	10.000円	日本協会機関誌（年11 日本協会主催大会無料パス 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引
ファミリー会員	3.000円	日本協会主催大会無料 ペア券1枚 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引

■登録増によるメリット

- メジャースポーツとして認知
- 登録金の増収

↓

- スポンサーがつく
- 全員参加意識の高揚

↓

財源確保

↓

各種事業への活用と充実
- 小・中学校の普及
- ビーチ・マスターズ・車いすハンドの支援
- ミニハンドボール競技の導入
- ジュニア層の重点強化
- 各大会の補助金アップ
- 国際大会の招致
- 一貫指導体制の確立

グランド会員、ファミリー会員への入会方法

所定の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、お申し込み下さい（郵送の場合は切手は必要ありません）。後日、日本ハンドボール協会から会員バッジなどをお送りします。年会費はご指定を受けた金融機関の口座から引き落としさせていただきます（ほとんどすべての金融機関でご利用できます）。

なお、申し込み用紙は、日本協会、各都道府県協会、または各全国連盟事務局にご請求下さい。

「がんばれハンドボール10万人会」を活性化に

元日本ハンドボール協会理事　越智　武

このような積極的な計画を何故もっと早くできなかったかと思うものである。積極的な行動実現に充実していこうではないか。この考え方により選手諸君も意欲が出てくることでしょう。

特に、学習指導要領案が発表され児童、生徒、学生にもそれぞれの年齢、学習時代、指導している方も児童時代の成果は生徒につながってゆく楽しみが沸いて夢をみながら指導ができることでしょう。

10万人も1人の信念で活動し大きく飛翔して団体となり、組織の基盤となり、充実発展するのである。

この発案に賛成をする1人である。この世界に携わって60年以上になるが経済力の充実にいつの時代にも考えさせられたものである。

協会法人化の時には随分と資金集めに苦労をしたが、結集が実現となりましたがいつの時代にも組織活動と財源とは切り離して考えられる問題ではないでしょう。

全国に携わる方々、お世話をしている方々、ファンの皆様、将来を大きく夢を見ながら協力しようではありませんか。

必ず実現することと確信するものである。

『チャンスの殿堂』番組出演者募集

毎日放送TBS系列において、『チャンスの殿堂』という番組がスタートしました。(毎週水曜日19時より60分)

この番組は、様々な願望を叶えるというコンセプトで、願望を叶えるようにコーディネーターを務めます。日本ハンドボール協会では、この番組の出演者をTBSに紹介いたします。以下のような例や、ご希望がありましたら、日本協会までご連絡下さい。

〈例〉名誉挽回チャンス

現在48歳、2児の父親であるAさんの心残りは、30年前の高校3年インターハイ県予選決勝戦。Aさんはチームのエースで、ポイントゲッター。県内でも名前の知られる選手であった。インターハイ出場確実といわれた決勝戦ではあったが、相手チームGKのBさんの好守にあい、試合は同点でAさんチームのノータイム7mTとなった。当然のごとく、Aさんは7mTを打つことになった。

しかし、捨て身の相手GK、Bさんのトリッキーな動きに惑わされ、思わずゴールをはずしてしまった。試合は延長戦に入ったが、勢いのついた相手チームに押され、まさかの逆転負け。インターハイ出場を逃してしまったのだ。

今でもあの時を思い出すと、悔しさがこみ上げる。

そんなAさんに番組は名誉挽回のチャンスを与えてくれます。

◎現在のBさんの住所分からず。

番組は、学校やBさんのチームメイトに問い合わせ、Bさんを捜す。

◎番組は、捜し出したBさんにAさんからの「ビデオレター」を渡す。

↓

Bさん、受けて立つ返事

◎再戦まで1週間

走ったり、腕立てをしたり、20年ぶりのトレーニングを始める両氏。家では子供が協力したり、会社で筋トレしたり…。

◎決戦当日「名誉挽回スタジアム」

会場でAさんを出迎えたのは当時のチームメイト。

観客席には会社の同僚、家族も応援。

当時のユニフォームを着て入場。

20年ぶりに宿敵Bさんと顔合わせ、激突!

家族の前で今まで見せたことのない「かっこいい親父」を見せる。

勝っても負けても宿敵同士が握手して“いい気分”な終わり。

(財)日本ハンドボール協会 シンボルマーク結果 発表

応募総数　449作品

■特賞



制作意図

JAPANの頭文字「j」をモチーフに、選手の躍動する姿をデザインしました。

宮城県　渡辺　信一氏（38歳）
グラフィックデザイナー

■入賞②



制作意図

日本ハンドボール協会の「H」をモチーフに、ひたむきに力強く競技をしている選手の躍動するイメージを表すと共に、ハンドボールの発展する姿をシンボライズしたもの。

東京都　井口やすひさ（53歳）
グラフィックデザイナー

■入賞③



福岡県　筒井　孝（42歳）
グラフィックデザイナー

■入賞④



作品の説明

ゴールへシュートするボールを手に、スピーディでダイナミックなハンドボールを楽しむ姿を、子供たちから大人まで誰にでもよくわかり親しめるよう少しキャラクター的にデザインし、黄色は機敏性・判断力・行動力・瞬発力・耐久力を育てるハンドボールの魅力と健康づくりへ波打つ生涯スポーツの歓びを、黒は人と人とが手に手をつなぐ心ふれあうチームワークと夢拓く供遊の輪を、赤はハンドボールに燐然と輝くハンドボールへの限りない情熱を表現し、これは又ハンドボールが21世紀に向かって力強く飛翔発展する雄姿を象徴したものです。

東大阪市　駒井　瞭（63歳）
グラフィックデザイナー

HAND BALL CONTENTS MAY

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第三九六号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可 平成十一年四月二十六日印刷 平成十一年五月一日発行

東京都渋谷区神南一−一−一 電話 代表 三四八一−二三六一 振替 〇〇一二〇−七−一〇二九三

編集兼発行人 市原則之

価格は登録金に含む